

特定非営利活動法人

VOL.48

南国暮らしの会

2010年 春季号



平成22年5月9日



登録第4810100号
(REGISTRATION NUMBER)

NPO法人 南国暮らしの会

南国暮らしの会

(2010年 春季号)

目 次

(敬称略)

ページ

平成 22 年度総会案内

平成 22 年度(第 12 期)南国暮らしの会総会のご案内	No. 712	高田 勝弘	1
平成 21 年度事業報告書	No. 712	高田 勝弘	3
平成 21 年度収支計算書			8
平成 21 年度貸借対照表			9
平成 21 年度監査報告書			10
平成 22 年度事業計画書案			11
平成 22 年度会計収支予算書案			12

フィリピン特集

フィリピンまめ知識		編集委員会	13
セブ島でノンビリ避寒生活	No. 816	有元 義晶	13
マニラの魅力	No.1269	岩崎 宏	15
「脱老老介護」の環境を求めて	No. 98	加藤 泰三	16
パギオの1年・パンガシナン1年	No. 227	斎木 一	18
ダバオと日本人の歴史	No.1261	藤本 晴久	23
フィリピンでのボランティア活動		編集委員会	25
・ダピタン会の紹介	No. 342	佐藤 勝	25
・介護はダバオで!	日本フィリピンボランティア協会	谷口 りか	28

一 般 投 稿

人との出会いが楽しいハワイのロングステイ	No. 891	徳永 卓雄	31
中南米の旅①(ロスアンゼルス経由) コスタリカ→エクアドル(編)	No. 40	平澤 信	35
GC版 最近の感触	No. 586	磯崎 興志	45

支 部 便 り

2010 年度チェンマイ支部情報	No. 54	山口 洋二	47
平成 21 年度・関東甲信越支部活動報告	No. 732	馬場 章介	47
関西支部便り	No. 754	松本都志重	48
九州支部便り	No. 851	稲田 聰	49

部会伝言板 50

友好団体紹介コーナー 51

編集後記 51

南国暮らしの会 支部一覧 52

写真提供 52

計 報 52

平成22年度（第12期）南国暮らしの会総会のご案内

理事長 高田 勝弘

若葉の候、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、南の会にご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、定期総会を下記の要領にて開催いたしますので、ご出席賜りたくご案内申し上げます。

表決権を有する会員は同封の葉書に出欠を記入しご返送願います。また欠席の方は同じ葉書下部記載の「平成22年度総会表決権行使委任状」にも記入しご返送をお願いいたします。

尚、今年度の総会表決権行使資格者は、昨年同様本年3月31日までに22年度年会費を納入された継続正会員の方ですのでご承知おき下さい（葉書は議決権を有する方のみと同封しております）。

記

日時： 平成22年5月30日（日）午前10時～11時30分

場所： 東京都南部労政会館（JR大崎駅南口徒歩3分、次ページ案内図参照）

1、総会議題

*第1号議案：平成21年度事業報告書及び決算報告・監査報告について(会報別頁参照)

*第2号議案：監事任期満了に伴う監事の選任について(理事会にて推薦)

①監事任期満了に伴う退任 No.22 斉藤彰

②重任監事 No.315 鈴木剛、No.512 金子良三

③新任監事 No.712 高田勝弘

*第3号議案：理事任期満了に伴う理事会の選任理事の信任について

① 理事任期満了に伴う退任(17名)

No.60 渡辺義郎、No.434 大野悦子、No.462 小林孝、No.465 橋本慧、No.470 細田良子、No.660 平方穰、
No.670 今野力男、No.712 高田勝弘、No.732 馬場章介、No.735 高橋実、No.888 勝本隆文、
No.900 島林健二、No.923 永田隼人、No.999 中山恒夫、No.1068 山科滋雄、No.1125 佐々木一信、
No.1256 大塚眞一

② 重任理事(理事会にて選任、4名)

No.732 馬場章介、No.1068 山科滋雄、No.1125 佐々木一信、No.1256 大塚眞一

③ 新任理事(理事会にて選任、13名)

No.489 加藤久子、No.513 青木方子、No.750 小松勝正、No.755 岩井文哉、No.1017 光城保之、
No.1108 山田美弥子、No.1118 肥後憲尚、No.1156 宇田秀樹、No.1161 永島和雄、No.1178 長谷川愈晃、
No.1225 高橋眞治、No.1230 吉野正博、No.1361 木村秀男

*第4号議案：平成22年度事業計画案及び予算案について(会報別頁参照)

*その他：新理事紹介と理事業務分担

2、総会の議事進行について

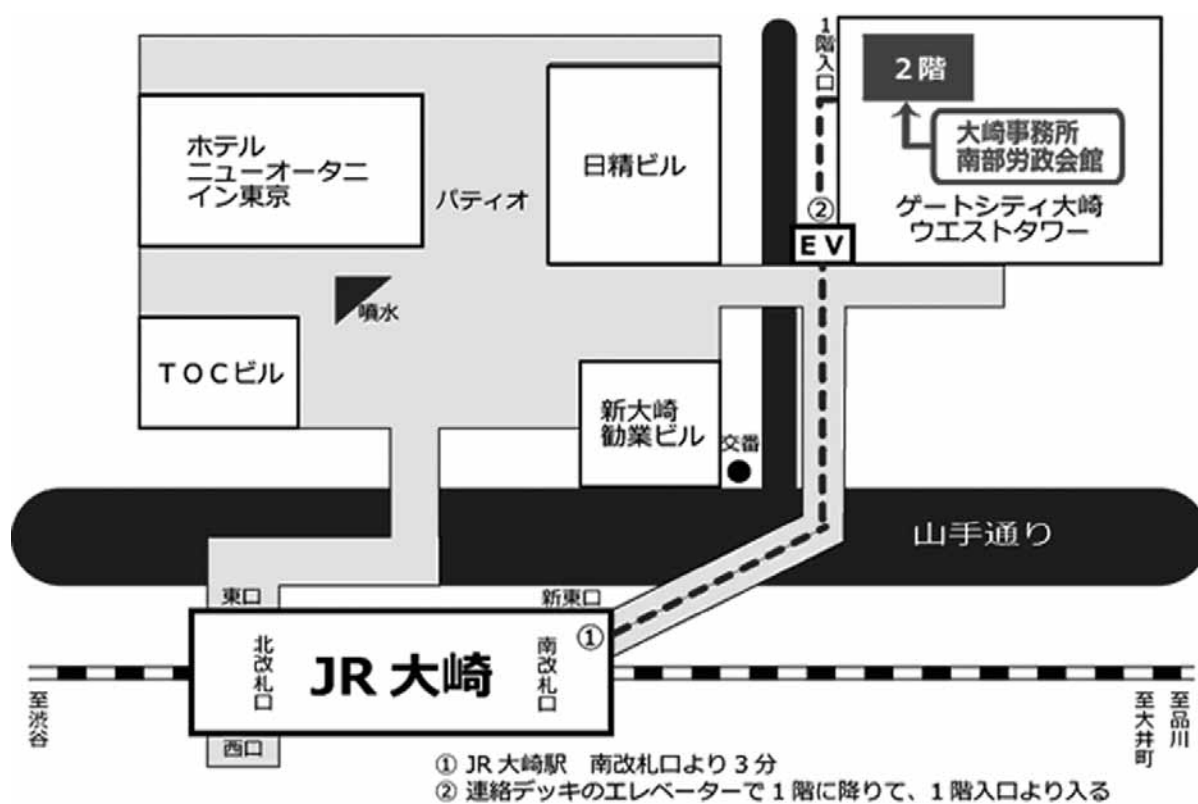
総会開催に当たり、会員の皆様は各議案内容を今会報にて事前にご検討していただき、ご出席できない方は同封葉書の「平成22年度総会表決権行使委任状」を予めご提出頂くこととしております(提出期限は5月25日です。この期限を過ぎた委任状は失効しますのでご注意ください)。

当日ご出席の方は員数確認のため必ず10時までに受付を済まして入場して下さい。受付係りも表決権者ですので10時にて受付を終了します(遅刻されますと表決権は失効します)。

総会の議事は資料の詳細説明は極力省き、質疑応答から開始し効率よく進行を計りたいと思いますので皆様のご協力をお願い申し上げます。従って当日は本会報（他に総会関連資料が同封された場合はその資料を含む）を必ずご持参下さい。

なお、議決権を有しない会員（4月以降に入会された新会員、会費納入が4月以降の継続会員）及び家族会員の方は別に席（総会会場議長席に向かって左側）を設けてありますので、そちらにご着席下さい。

……………総会会場(南部労政会館)のご案内……………



平成 21 年度 事業報告書

(平成 21 年 4 月 1 日から平成 22 年 3 月 31 日まで)

特定非営利活動法人 南国暮らしの会
理事長 高田 勝弘

1. 事業の成果

1) 理事会

本年は裁判も終了しましたので、特別委員の理事 3 名が退任し、17 名の理事で実務を行いました。各部署の方々のご尽力により、運営に支障も無く実務を遂行する事が出来ました。

2) 国内支部活動

各支部ともサロン会・情報交換会・旅行企画等活発な活動が行われました。21 年 5 月 30 日（土）には国内支部長及び役員会が開催され、各支部の活動報告、活動予定が報告され、意見交換も行われました。

その中で甲信越支部は地理的に会員が非常に集まりづらく、年一度のサロン会も 2 名の参加者予定との実情を検討し、支部を解散し東海支部、関東支部に編入する事になりました。結果、関東支部は関東甲信越支部と名称変更しました。

これにより、国内は 6 支部になりました。東北支部も実情はなかなか難しいが会員の皆様の熱意により、サロン会を年数回開催し少人数であっても今後とも交流を図りたいとの事で活発な活動の準備が整いました。嬉しい事です。

支部長会で問題とされた、グループ旅行については、各支部で企画運営されても最終的には何かあれば、当会に責任は及ぶ事になりますので、全て自己責任と言う事を徹底し、万一事故があっても当会に責任は及ばないとした上で、大いにグループ旅行も楽しもうという結論になりました。

以上、来期も各支部の活動を期待致します。

3) 海外支部の動向

海外支部では、サロン会、食事会、その他短期訪問会員への支援も活発に活動して頂き感謝にたえません。

本年はゴールドコーストも三神さんが会友でありながら、常駐の利点を活かし、No.586 磯崎さんが支部長代行になって頂き支部として活動を開始致しました。

チェンマイでは 1, 2, 3 月のシーズンには 100 名以上の会員の皆様が訪問し、役員の方、又長期滞在者の方に大変なご支援頂きました。

海外に支部組織を持つ LS の会は当会だけと言っても過言ではなく、これにより多くの会員が LS を楽しみやすくなっている事は素晴らしい事だと思います。

従ってお世話になる会員の皆様もお世話されるのが当たり前と言う考えはなく、出来るだけ自立心を持った行動を身に付ける事が必要かと思えます。

4) 10 周年記念行事

本年は会創立 10 周年を迎え、10 周年記念委員会を本部に設置し、国内各支部には 9 月～10 月中に 10 周年記念サロン会を開催して頂き、海外支部はこれを一律に開催して頂くのは大変と考え自主性とし、開催をお願いしませんでした。

開催された支部は各々工夫を凝らし素晴らしいサロン会となり、各支部の方々 又参加

した会員の方々のご協力に感謝します。

本部としては当会のマーク入りのTシャツを作成及び創立10周年記念特集号(会報VOL.46)を発行しました。特集号は「会の歴史と沿革」、海外各地の詳細にわたる情報を集めた「お役立ち情報」、「医療編」等を保存版として会員の方が便利に使えるように工夫しました。会員各位で会の様々の発展を祝う事が出来ました事を喜び合いたいと思います。

5) HP (ホームページ) 及び南国ML (メーリングリスト) について

近年新規入会者はHPを見て入会される方が大多数でHPの意義は当会にとって大きな存在と思います。

但し、作成以来ご尽力を賜りました高橋理事が病いに倒れ、1月には残念ながらご逝去されてしまい会員一同で氏の貢献に感謝するとともに衷心よりご冥福を祈りたいと思います。

又、この緊急事態に九州のNo.581 朝永会員が後継を引き受けて下さり、実務に差し障りがないようにして下さった事に感謝致します。

南国MLは前年度第二メールを開設しましたが、裁判も終了したこともあり総会後は第二メールへの掲載は殆ど有りませんでした。これは会に無用なトラブルもなく皆様が和気藹々と一面では会の活動を楽しんで頂けている証拠として嬉しい事だと思えます。

但し、今後も会への真摯なご要望、ご意見などがあれば、何時でも第二メールでご投稿下さる事はやぶさかではありません。

6) 裁判に関して

平成18年に当会が提訴された裁判は4月8日の第6回控訴審で和解の合意となり、既に昨年度 会報NO44 [2009年春季号参照) にて皆様にご報告した通りで今後は双方とも会の発展の為に尽くす事に同意致しました。

7) 必携のCD化

本年は必携を増刷する事になり、それを機会に必携委員会で細則を含め検討改正しました。更に画期的なこととして、必携、細則をCD化して会員に10周年記念品と合わせて配布しました

2. 事業の実施に関する事項

1) 会報作成/発行

◎春季号(VOL.44) 21年 5月9日発行 (74頁)

平成21年度総会案内、ハワイ支部特集

◎夏季号(VOL.45) 21年 8月9日発行 (42頁)

平成21年度総会報告、九州支部特集

◎秋季号(VOL.46) 21年10月24日発行 (102頁)

創立10周年記念特集号・保存版、付録CD・Tシャツ

◎新年号(VOL.47) 21年 1月23日発行 (46頁)

北海道支部特集、各支部10周年行事報告

2) メーリングリスト (ML)

南国MLはメインの第1MLを中心に順調に推移した。

21年度末の南国ML登録会員は563名(一部重複有り)で、昨年509名を上回り、MLが会員相互の主要な情報交換の場になっていることをうかがわせる。

一年を通じて海外渡航情報（お出かけ情報）のほか、海外L S地の情報としてチェンマイ、セブ、バリ、バギオからの定期的な投稿が多い。

ML運営に置いては、コンピュータ・ウイルス発生による被害もなく、またML規約違反の投稿も少なく運営上の問題は少なかった。一方、近年は投稿内容がやや類型的になる傾向が見受けられ、L S情報交換の目的に一層寄与できるように会員の体験した具体的なL S情報の投稿が多くなることが期待される。

3) 国内外支部活動関係

①北海道支部

- 1) サロン会&懇親会・4回実施・参加総人数64名
※サロン会特記→・女性会員サロン会(4月)・NPO認証10周年記念行事(10月、洞爺湖で移動サロン会)・女性会員新年サロン会(1月)
- 2) 支部役員会 2回(4月・7月)参加総人数8名
- 3) その他・親睦ゴルフ(8月)参加者10名

②東北支部

- 1) NPO認証10周年記念&サロン会(9月)参加人数9名

③関東甲信越支部

- 1) サロン会&懇親会(6月を除く毎月開催)・11回実施・参加総人数673名
※サロン会特記→・今年度よりプロジェクター導入・NPO認証10周年記念サロン会(10月)「タイのL Sについて」タイ国政府観光庁、藤村善章氏の講演
- 2) 支部役員会・サロン会開始前に(支部運営関係、サロン会、打合せ)11回実施
- 3) その他(同好会・下見ツアー・ボランティア)
 - ・テニス同好会(8回実施・参加者100名)
 - ・クルーズ同好会(7月、エーゲ海・トルコクルーズ、3支部から19名参加)
 - ・パソコン教室(初心者コース7回を含め計17回実施・参加者123名)
 - ・中国・桂林L S下見ツアー(3月・参加者14名)
 - ・バギオ・パンガシナン支部エリアの災害の義援金活動
 - ・タイ義肢財団への使用済みパンスト収集提供活動

④東海支部

- 1) サロン会(定例会)&懇親会・11回・平日いこみゃー会10回・計21回実施、参加総人数387名
※サロン会特記→・浜松地区ミニサロン会(6月)参加者11名・フィンランドについて在住会員を講師に実施・アメージング・タイランドシニアセミナーin名古屋(7月)タイ国観光庁の依頼に応じパネラーとして会員代表者参加、東海支部もブース設営(一般参加者約400名訪れる)会の宣伝と会員勧誘を行う
・NPO認証10周年記念行事実施(11月)参加者39名東海地区で活躍中の「えぐれ笹島女史」講演(ウクレレ漫談、トーク等)
- 2) 支部役員会 2回実施(9月・3月)
- 3) 海外下見ツアー関連
 - ・台湾パートII・花蓮&台中(11月)パートIIIも予定
 - ・中国桂林8年間滞在経験の藤井氏の講演実施(3月14日・24名参加)
- 4) その他
 - ・懇親ゴルフコンペ(5月・11月)の2回開催
 - ・5分間(1口)英単語教室(10回実施)講師は支部会員

⑤関西支部

- 1) サロン会(例会)&懇親会: 6回開催・参加総人員160名
※サロン会特記→・移動サロン会(5月、奈良県)・支部総会(7月)・NPO認証記念行事実施(9月)
支部役員会: 5回開催(4月・7月・8月・11月・1月)参加総人員46名
- 3) タイ国セミナーに4名参加(7月10日)
- 4) その他: 桜鑑賞ハイキング(4月・10名)・ゴルフコンペ(4月・8名参加)

⑥九州支部

- 1) サロン会(例会)&懇親会 9回実施 参加総人数173名
※サロン会特記→・理事長講演(4月熊本)・支部総会(6月)・南九州サロン会(7月熊本、10月鹿児島)・チェンマイでミニサロン会(8月、11月)・NPO認証10周年記念行事(11月、台湾総領事を招き記念講演)・新年サロン会、立命館アジア太平洋大学LBS研究会 前川真輝氏の講演実施(1月福岡)
- 2) 支部役員会 2回(6月・2月)実施
- 3) その他行事 蕎麦打ち体験、試食会開催(8月)

⑦チェンマイ支部

- 1) サロン会&懇親会(4月を除き毎月1回開催) 11回 参加総人数446名
- 2) その他、12月クリスマスパーティー 参加者36名
- 3) 支部役員会 3回実施・参加総人数18名
(7月役員人事・12月、役員交代及び支部経費使用・2月、新年度活動計画)

⑧ペナン支部

- 1) サロン会 2回(7月・2月) 参加総人数76名
- 2) 支部役員会 3回(6月・11月・3月)

⑨バギオ・パンガシナン支部

- 1) 当支部は従来より訪問会員へのヘルプが活動の中心でしたが、今年度前半はバギオ開市百年祭で混雑する事で会員へのPRも控え目にする。後半のベストシーズンに思わぬ台風被害、その後の復興の遅れも重なり安全を考慮、会員の来訪を自粛頂いた関係で会員へのお手伝いは例年に比べ減少しましたが支部としての方針は正しかったと考えています。
- 2) 台風被害発生以来、パンガシナン州の地元被害者支援活動が中心になる。被害発生以来6ヶ月間(22年3月末まで続く)で会員からの支援金が30万も集まり、炊き出し5千食超(場所は当初の自宅から町内会事務所~小学校に拡大、支援校は5校を数える)、食料品等の支援袋も千袋を超え、被害校の土砂撤去、清掃、流出した図書、文房具等の提供も出来ました。又、リコーダー贈呈先小学校(会員の寄付)では、地元政治家の支援を引き出し校舎やフェンス修理に寄与する事が出来ました。
この度の会員各位からの温かいご支援には喪心より感謝申し上げます。
- 3) 災害支援でパンガシナン州ウルダネタ市では「会」の知名度向上に大変効果が有った事は間違いなく地元ロータリークラブとの友好関係構築でき、ウルダネタ外国人クラブとは来季から多くの機会に共同でボランティアに取り組む事になりそうです。
- 4) その他
今年度から、厚労省、日本遺族会等の戦没者慰霊団のガイドがあります。「南国暮らしの会」バギオ・パンガシナン支部として事前現地調査、食事の手配、コース選定、慰霊祭実施場所の確定、地主等との事前打ち合わせで協力する。

⑩ハワイ支部

- 1) サロン会&懇親会6回(6月・7月・10月×2・1月×2) 総参加人数42名
- 2) 親睦ゴルフコンペ(7月)開催

4) 広報活動

昨年に続き外部からの取材及びマスコミへの掲載協力、さらにホームページ News の充実を図りました。但し、担当の高橋理事が残念ながらご逝去され、九州のNo.581 朝永会員が引き受けていただき、実務に差し障りがないようにして下さった事に感謝致します。ホームページをみて入会される会員が増えてきております。ヒット数も延べ87, 250件を超えました。

5) 厚生活動

「便利帳-医療編」の新版の小型版を発行する予定であったが、創立10周年記念特集(VOL. 46)保存版の中に「医療編」として掲載することにしました。

「出発前に準備すること」「海外の医療事情」「海外における診療、治療体験」等海外にステイする際は大変参考になることでしょう。

3. 会の管理に関する事項

1) 総会関係

平成21年5月31日(日)、正会員337名(うち書面表決者283名)が出席して実施。

2) 理事会関係

平成20年度第6回理事会：平成21年04月12日、理事16名、委任状3名・監事3名出席。

平成20年度第7回理事会：平成21年05月23日、理事16名、委任状4名、監事2名出席。

平成21年度第1回理事会：平成21年06月06日、理事12名、委任状4名出席。

平成21年度第2回理事会：平成21年08月30日、理事12名、委任状4名、監事2名出席。

平成21年度第3回理事会：平成21年09月26日、理事13名、委任状4名・監事2名出席。

平成21年度第4回理事会：平成21年12月23日、理事12名、委任状4名・監事2名出席。

平成21年度第5回理事会：平成22年03月13日、理事11名、委任状5名・監事3名出席。

3) 役員会・支部長会関係

平成21年5月30日(土)、理事16名、支部長5名、監事及び相談役が参加して実施。

4) 登記事項 平成21年6月

理事(就任)：山科滋雄、大塚眞一

理事(辞任)：宮寄哲郎、菊地功、磯崎興志、村松幸子、浅山簇治、

5) 会員動向

平成20年からの継続会員数：587名(内、年度内退会者9名。休会者1名 計10名)

平成21年度新規会員数：69名

平成21年度期末の会員数は合計646名でした。

また、平成22年3月31日までに22年度年会費を納入された継続会員は547名で会則により平成22年度の総会表決権者数は547名となりました。

以上

平成21年度 特定非営利活動に係る事業の会計 収支計算書

平成21年4月1日から平成22年3月31日まで

特定非営利活動法人 南国暮らしの会

(単位：円)

科目	予算額 (A)	実績 (B)	差額 (B-A)	摘要
I 収入の部				
(1) 入会金収入	450,000	345,000	△ 105,000	新規入会者69名
(2) 会費収入	3,350,000	3,280,000	△ 70,000	会員656名
(3) 資料売収入	100,000	89,000	△ 11,000	89件
(4) 寄付金収入	10,000	30,000	20,000	寄付1件3万円
(5) 基本金等利息収入	1,000	77	△ 923	
(6) 雑収入	159,000	19,300	△ 139,700	10周年記念Tシャツ販売
(7) 事業拡張準備金より繰り入れ	300,000	0	△ 300,000	繰り入れを行わない
1. 当期収入合計	4,370,000	3,763,377	△ 606,623	入会者減、Tシャツ販売未達
2. 前期繰越	1,256,040	1,256,040	0	
3. 収入合計	5,626,040	5,019,417	△ 606,623	1+2
II 支出の部				
(1) 事業費	4,048,000	3,673,282	△ 374,718	
① 会報等事業費	1,310,000	1,338,807	28,807	年4回発行、編集外注化費用増
② 会報等送料費	438,000	542,448	104,448	年4回発行、海外送料費用増
③ 資料等製作事業費	143,000	59,248	△ 83,752	
④ 報告書等製作事業費	110,000	117,600	7,600	会員名簿製作
⑤ 案内書製作事業費	191,000	91,335	△ 99,665	「必携」新版製作、役員用はCDで代替
⑥ 広報活動事業費	150,000	63,969	△ 86,031	プロバイダ費用
⑦ 講師等謝礼費	75,000	75,000	0	
⑧ 支部関係事業費	621,000	594,140	△ 26,860	
⑨ 社会貢献事業費	50,000	0	△ 50,000	実施せず
⑩ NPO認証10周年事業費	960,000	790,735	△ 169,265	記念Tシャツ、支部への補助金支給
(2) 管理費	718,000	587,782	△ 130,218	
① 事務用品費	8,000	17,202	9,202	
② 旅費・交通費	500,000	493,830	△ 6,170	
③ 通信運搬費	65,000	19,270	△ 45,730	
④ 雑費	54,000	40,620	△ 13,380	
⑤ 支払い使用料	11,000	10,500	△ 500	インターネット経理使用料
⑥ 裁判関連費用	80,000	6,360	△ 73,640	
(3) 予備費	50,000	0	△ 50,000	
4. 当期支出合計	4,816,000	4,261,064	△ 554,936	(1)+(2)+(3)
5. 当期収支差額	△ 446,000	△ 497,687	△ 51,687	1-4
6. 事業拡張準備金へ繰入	0	400,000	400,000	準備金の積み増し
7. 次期繰り越し収支差額	810,040	358,353	△ 451,687	3-4-6

上記監査の結果、いずれも正確であることを認めます。

平成22年4月11日

特定非営利活動法人 南国暮らしの会 監査会

監事 鈴木 剛 印
 監事 金子 良三 印
 監事 斉藤 彰 印

平成21年度 特定非営利活動に係る事業の会計 貸借対照表

(平成22年3月31日現在)

特定非営利活動法人南国暮らしの会

(単位：円)

科 目	金 額		
1. 資産の部			
(1) 流動資産			
現金	0		
普通預金	313,032		
郵便貯金	232,771		
郵便振替口座	3,267,550		
定額貯金	1,500,000		
流動資産合計		<u>5,313,353</u>	
資産合計			<u>5,313,353</u>
2. 負債の部			
(1) 流動負債			
前受金	2,950,000		
預かり金	5,000		
流動負債合計		<u>2,955,000</u>	
3. 正味財産の部			
基本金		300,000	
事業拡張準備金		1,700,000	
次期繰越金		358,353	
正味財産合計		<u>2,358,353</u>	
負債及び正味財産合計			<u>5,313,353</u>

上記監査の結果、いずれも正確であることを認めます。

平成22年4月11日

特定非営利活動法人 南国暮らしの会 監査会

監事 鈴木 剛 印

監事 金子 良三 印

監事 斉藤 彰 印

特定非営利活動法人 南国暮らしの会
理事長 高田 勝弘 殿

監 査 報 告 書

特定非営利活動法人南国暮らしの会の平成21年度(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)における監事監査に関し、監査の方法及びその結果について協議し、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告します。

1、監事の監査方法の概要

監事会は予め定めた監査の方針等に従い、理事会その他重要会議に出席し、理事会の運営、理事の業務執行、事業活動及び財産の状況を調査し、必要に応じて理事等から報告を求めました。

2、監査の結果

- ① 事業報告書・役員名簿・社員名簿は、法令及び定款に従い、法人の活動状況を適格かつ適正に示している事を確認しました。
- ② 計算書類(収支計算書・貸借対照表・財産目録)は、記載すべき事項を正しく示しており、正確かつ適正であることを確認しました。指摘すべき事項は認められません。
- ③ 理事その他役員の職務遂行に関する不正行為または法令もしくは定款に違反する重大な事実はありません。

平成22年4月11日

特定非営利活動法人 南国暮らしの会

監事	鈴木	剛	印
監事	金子	良三	印
監事	斉藤	彰	印

平成 22 年度事業計画書案

(平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)

1. 事業の方針

- * 会報事業は年 3 回(新年号、春季号、夏季号)の発行とする。(会報部会)
- * 電子化(PDF)された会報の閲覧は、従来通り南国 ML の HP にアップする。また希望者には配信する。尚、今後のバックナンバーの保存を CD 化し、希望者に有料販売する方向にする。(会報部会)
- * 益々盛んになるであろう LS に対し LS 地での会員の良識ある行動を求める為、「必携」の「海外べからず集」を一層会員に周知させる。(必携委員会)
- * 「入会案内」の見直しと増刷を行なう。(会員部会)
- * HP の一層のレベルアップを推進し、対外的に南の会を広く PR するとともに、会員の為の情報提供に役立つようにする。(HP 委員会)
- * ML の健全な普及啓蒙を目指す。(ML 委員会)
- * 国内支部の組織化を推進し、各支部がサロン会を軸に情報交換会、講演会、下見ツアーなど開催し、会員相互の親睦と研鑽を深める。(支部推進委員会)
- * 上記サロン会等のみならず、同好会活動を通じて、会員間の一層の親睦を計る。更にパソコン教室等を開催して LS に必要な技量アップを図る。(パソコン教室・各同好会等)
- * 国内外支部と連携を密にし、会員のための会運営を推進する。(支部推進委員会)
- * 南の会及び各支部が企画する旅行会、下見ツアー等に対し基本的に会員各自の自己責任であることを周知。(総務部会・支部長会)

2. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施予定	実施予定場所・内容	備考
会報製作	会報発行(新年・春・夏)	年 3 回	内容の充実とページ数の固定。カラー検討	会報委員会 編集補助の強化
会報 P D F	バックナンバーの CD 化	随時	閲覧は従来通り CD 有料販売の検討	会報委員会
資料等製作	問合せ・入会者への資料作成送付	随時	事務処理の合理化	会員部会
報告書等製作	会員名簿等の作成 会報・同封資料の作成	年 1 回 随時	緊急資料、必携追加 分	会員部会 各部会、必携委員会
	入会案内の作成		内容の充実	会員部会
	細則改訂	随時	理事会	総務部会 必携委員会
広報活動	対外情報の一括管理 HP の管理・メンテナンス ML の管理	常時	HP の合理的運用 ML の適正な運用	広報委員会 HP 委員会 ML 委員会
支部活動支援	国内 6 支部・海外 8 支部に補助金等支給	随時	各支部との交流促進 海外支部の支援強化	支部推進委員会
	支部単位でサロン会・同好会等の実施	随時	適時人事交流 パソコン教室の拡大	支部推進委員会 支部役員・会幹事
	支部長会(役員会共催)	1 回/年	東京	国内支部長
通常総会	総会開催	1 回/年	東京	理事長・総務部会
理事会	理事会の開催	6 回/年	東京	理事・監事

(2) 収益事業：なし

平成22年度特定非営利活動に係わる会計収支予算書案

(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

特定非営利活動法人 南国暮らしの会

(単位：円)

科 目	前年度 予算額 (A)	本年度 予算額 (B)	差異 (B-A)	摘 要
I. 収入の部				
1) 入会金収入	450,000	350,000	▲ 100,000	入会金：5,000円、想定新規入会者数70名 (前年実績69名)
2) 会費収入	3,350,000	3,100,000	▲ 250,000	想定継続会員数550名(継続率85%) 新規入会70名想定
3) 資料売収入	100,000	100,000	0	100名想定、前年実績83名
4) 寄付金収入	10,000	0	▲ 10,000	
5) 基本金等利息収入	1,000	100	▲ 900	
6) 雑収入	159,000	0	▲ 159,000	名刺印刷廃止
7) 事業拡張準備金より繰入	300,000	0	▲ 300,000	
1. 当期収入合計	4,370,000	3,550,100	▲ 819,900	
2. 前期繰越	1,256,040	358,353	▲ 897,687	前年度決算での繰越額
3. 収入合計	5,626,040	3,908,453	▲ 1,717,587	1. + 2.
II. 支出の部				
1) 事業費	4,048,000	2,726,000	▲ 1,322,000	
①会報等事業費	1,310,000	1,180,000	▲ 130,000	年3回発行会報制作費、文具代
②会報等送料費	438,000	370,000	▲ 68,000	メール便、海外送料費
③資料等製作事業費	143,000	85,000	▲ 58,000	入会者向け資料、会員証、送料代等
④報告書等製作事業費	110,000	130,000	20,000	会員名簿
⑤案内書製作事業費	191,000	200,000	9,000	入会案内増刷(在庫無くなった時)
⑥広報活動事業費	150,000	111,000	▲ 39,000	プロバイダー会費、ML運用費
⑦講師等謝礼費	75,000	75,000	0	
⑧支部関係事業費	621,000	575,000	▲ 46,000	支部補助費、支部交流、甲信越統合
⑨社会貢献事業費	50,000	0	▲ 50,000	
⑩NPO認証10周年事業費	960,000	0	▲ 960,000	記念事業経費
2) 管理費	718,000	578,500	▲ 139,500	
①事務用品費	8,000	15,000	7,000	
②旅費・交通費	500,000	495,000	▲ 5,000	役員・支部長会経費
③通信運搬費	65,000	27,500	▲ 37,500	前年実績
④雑費	54,000	30,000	▲ 24,000	
⑤支払使用料	11,000	11,000	0	ネット会計使用料
⑥裁判関連費用	80,000	0	▲ 80,000	
3) 予備費	50,000	10,000	▲ 40,000	
4. 当期支出合計	4,816,000	3,314,500	▲ 1,501,500	1) + 2) + 3)
5. 当期収支差額	▲ 446,000	235,600	681,600	1. - 4.
6. 次期繰越収支差額	810,040	593,953	▲ 216,087	3. - 4.

注1. 会員数合計620名を想定しており、この増減により収入・経費も大きく増減するので、期央において予算の見直しを検討し、健全な運営に努める。

フィリピン特集

フィリピンまめ知識

編集委員会

正式国名	フィリピン共和国
首都	メトロマニラ
面積	29万9404km ² (日本の面積の80%)
人口	約8500万人
政治体制	立憲共和制
民族構成	マレー系95%中国系1.5%
宗教	アジアで唯一のキリスト教 ローマカトリック85%
言語	公用語はタガログ語 但し ビサヤ諸島ではビサヤ語 共通語は英語
通貨	ペソ (P) と センタボ (C) P 1 = 100 C
為替レート	1 P = 約 ¥ 2 (2010年3月現在)
時差	日本との時差はマイナス1時間
気候	亜熱帯~熱帯性。6~10月は雨期、 11~2月涼しい乾季、3~5月暑い乾季。 平均気温 28度

(以上はフィリピン政府観光省の資料を参照しました)

フィリピンは大小7107の島々から成り、インドネシアに次いで世界第2位の群島国家です。首都マニラの有るルソン島、ミンダナオ島、セブ島などで総面積の95%になります。歴史的には1521年以前、スペイン統治時代、アメリカ統治時代、1946年の独立以降に分けられます。また明治時代から日本人の移民があり、その面影が残っているところもあります。先の大戦でアメリカ軍と激戦を繰り広げられた地でもあり、遺骨収集も続いており、各地に慰霊碑が建立されています。このように日本との関わりも古くからあり、日系人も多数暮らしています。国民性は歴史的に各国の影響を受けて

おります。とりわけスペインとの交流が長かった為、アジア人というよりもラテン的な情熱的な明るさを感じます。

教育はアメリカと同じで小学校6年、高校4年、大学4年で新学期は6月で3月までです。日本からのアクセスは、成田、関空、名古屋、福岡、沖縄からマニラへ直行便が有ります。セブへも直行便で行く事ができます。その他ソウル、台北、香港など第3国経由で行くこともできます。

南の会は現在、マニラ、セブ、バギオ、パンガシナン、ダバオ(支部長空席)に支部が有りますが、ボラカイ島やボホール島、サマル島、イロイロ、プエルト、プリンセサなどLS候補地として、興味をそそられる地域も沢山あります。またLS中の方、シーズンステイ、旅行で行かれた多くの会員が学資支援など様々なボラティア活動に参加していることも特筆されます。

セブ島でノンビリ避寒生活

関西支部 No.816 有元 義晶

セブは2回目の訪問ですが、今回はゴルフ無し、ダイビングとビール片手にノンビリ過すのが目的で寒い日本を脱出しました。

セブ情報については、セブ支部渡辺さんの「セブ便り」に詳しく紹介されていますが、ほんの一端ですが、私なりの感想を述べてみます。

<滞在期間>

H 2 2 ・ 1 / 3 0 ~ 2 / 2 8

K I X = M N L = S E B フィリピン航空利用 料金 1ヶ月53000円+諸費用10000円
マニラでの入国審査もスムーズ、セブ行き国内線乗り継ぎも同じターミナル(T2)なので簡単でした。

セブ到着16:30 曇り空で案外涼しい。「セブ便り」を参考に最小限の両替と、イエロー

タクシーにてホテルへ 料金 280 ペソ 近くで
SIMカード購入 鶴岡支部長に連絡。翌朝のミ
ーティングに参加、1ヶ月セブ生活の挨拶と情
報提供受ける。

帰国時、1月から出入国カードが再々変更さ
れマニラ空港出国時に新カードに再記入。昨年
から3回ほど変更になっているとの事要注意で
す。

<宿泊>

最初の3日間は市内ホテルをインターネット
で予約、その後セブ支部のNさん紹介の滞在型
ペンションに移る。1ヶ月 26000 ペソ 40平
米ダブルベッド・TV・冷蔵庫・シャワール
ームあり、セブ在住の方は半年から1年契約で月
12000～30000ペソのコンドミニウムに入居。

こまめに探せば短期ステイでの空室はあるよ
うです。

<交通>

タクシー 初乗り 30 ペソ 市内であれば 150
ペソ以内でほとんどカバーできます。

市内マクタン島 200～300ペソ
交渉が必要なときもあります。

ジブニー 7ペソで沢山走っていますが、行き方
が分からず又スリなど危険だからと、
乗りませんでした。

東南アジア全般に言えることですが、道路は
車優先で、歩道はデコボコ・障害物も所々にあり、
埃っぽくマスクをしているローカル人もいまし
た。

朝と夕方は、交通ラッシュでタクシーが捕ま
らないことも多々あります。

<食事>

フィリピン料理は安く結構美味しい、ほとん
どの人は1日 100～300ペソで生活してる。

日本料理・イタリア料理・中華料理は1回
300～500ペソでお金持ちか日本人がほとん
どのようです。

夕食は、毎日セブ支部の方に色々な所に連れ
て行っていただきました。

<治安>

昼間は、何処を歩いてもほぼ安全と思いま
すが、人混みは要注意。

夜間も、大通りは良く歩きましたが、やはり
タクシーの方が安全、ダウンタウンの歩道は子
供達が沢山寝ていました。

携帯電話等の貴重品は、見えないようにする
のが身の危険予防です。

<物価>

物にもよりますが、日本の1/3～1/2程度
だと思います、スーパーマーケットによく行
きましたが、品揃えと価格は満足できます。

マンゴー 1個—15～20ペソ みかん 1K—
90ペソ ビール缶 340ML—25ペソ ミネ
ラルウォーター 1.8L—23ペソ ガソリン 1L—
37ペソ 日清カップめん—19ペソ。

<語学学習>

セブの語学学校は50校位あると言われていま
す、1番は韓国人が多く、小学生が大挙して学
習している姿も見受けられます。2番目は日本
人のようです。

私は、今回 学校に入らず個人レッスン週2
日 1日3時間で500ペソ(これでも高いらしい)
をお願いしました。

人気があるのは、圧倒的に授業料が安いから
でしょうか。

<ダイビング>

マクタン島東部一帯にリゾートホテルとダイ
ビングサービスショップが軒を並べ、日本人経
営のショップも数軒あります、ダイビングは危
険を伴う為、日本語が通じる方がより安心で皆
さん日本人オーナーの店をよく使ってるよう
です。

料金はまちまちですが、道具一式込みで体験
ダイビング約5000ペソ、2ポートダイビング
2000～3000ペソ、ボートで30分程のダイ
ビングスポットは、魚種・魚影とも濃く餌をや
ると近寄ってきます。

<ゴルフ>

セブ島に3ヶ所 マクタン島に1ヶ所あり、「セブ便り」に詳しく出ています。

<その他>

言語は英語が共通語ですが、ビサヤ語・セブアノ語のチャンポンで話してる人が多いです。

宗教は、キリスト教信者が90%以上で、教会も至る所にあり、朝から沢山の人がお祈りをしています。

役に立つガイド本「SEBU POT」が、日本料理店などにありますので利用するといいいでしょう。

最後に、セブ在住の皆さんにお世話になり、楽しく過ごさせて頂き有難うございました。

マニラの魅力

マニラ支部 No.1269 岩崎 宏

毎日のようにパソコンのメール欄に登場するタイのチェンマイ、本当に凄い人気ですね。フィリピンには、バギオ、セブ、マニラ、ダバオと約四カ所に支部（ダバオは支部？でも、マニラは会員がダバオより少ないので？）があります。最近、セブ、ダバオが注目されて来た印象が有りますね。

いつも思うのですが、マニラのイメージが誤解されているのではと。ある日本人（国際交流を三重県は伊賀市でなさった方、が今回ビサ申請の時のお礼という事で訪問して下さいました。）は、日本の小学校の生徒は、フィリピンの子供たちと交流出来るまでは、フィリピンで、ゴミを拾って生活してる人々が暮らしてる国と思っていましたとコメントされた事を報告してくれました。でも 今回の国際交流で、フィリピンにもこんな美しい、そして素晴らしい所が、そして人々が居る事を知って本当に 感激しましたというコメントを交流後に聞いて本当に良かったとお話して下さいました。日本の報道を見るにつけ考えされるのは事実です。

其のフィリピンですが、最近ショッピング

モール街、そして洒落たブティック通りなどが、どんどん出来て今までのイメージとは全然違う雰囲気を醸し出しています。フィリピンの若者はアメリカナイズされている子が多く、男の子も、女の子も本当におしゃれでかっこうよくなって来ています。

そんな最近のフィリピンですが、私はこのフィリピンに住んで31年、本当のフィリピンの良さは田舎に有りと考えています。私が来比した1979年代はマルコス大統領の独裁真っ盛り、この頃フィリピンで聞いた良い言葉は、フィリピンホスピタリティーという言葉です。フィリピン人は外国人を陽気に、親切に、ありったけの笑顔と粗末でも有るだけのご馳走でもてなしてくれる国民気質という意味の言葉です。もちろん、都会にもまだまだこのホスピタリティーは残っていますが、なんといっても田舎です。



皆様ご存知のように、大東亜戦争では、フィリピンに多大な迷惑をかけてしまいました。しかし戦後、65年が過ぎようとしている今、反日感情は嘘のように有りません。そんな中、田舎の家を訪問したりすると、生活は質素、それでも自分たちが食している食べ物をわかちあって、誘ってくれます。「もしもし、あのね?」「ありがと。」「おはよ。」ありったけの知ってる日本語を駆使して 相手をしてくれます。しかも素晴らしい笑顔です。フィリピン人の人は誤解されてるかもしれませんが、大変な家族思い、兄妹思いです。今時、長男、長女が兄妹の先頭に立って働いて、妹、弟の学費の面倒を見るなんて事が考えられますか。

おじいちゃん、おばあちゃんはもちろん、両親の面倒も良く見るし、この国の田舎ではおそらく一生、介護の問題は生まれて来ないのではないかと思うくらいです。こんな国フィリピンに是非いらしてみてください。

今、私が個人的に、良い所だなと思っている所に、サンタロサ、タガイタイという所があります。サンタロサは、日系企業が沢山進出している工業団地がある所としても有名です。最近のサンタロサの発展には目を見張るものがあります。病院が出来、ホテルが出来、市場が整理されてクリーンになり、モールが整備され、日本レストランが6～7件に、日本食材店、ラーメン屋さん（これがうまい。）、居酒屋も出来、日本人に取っては非常に有り難くなってきています。

住宅事情と言えば、一年契約ですが、一ヶ月2万円ちょいで一軒家が借りられるという場所です。しかも部屋数が3部屋なんていう家もあります。ちゃんとゲートが付いて、セキュリティガードが門番をして24時間チェックしているビレッジと呼ばれる所です。近くには以前紹介しましたがタガイタイの（フィリピンのこの暑い今でも朝夕20度くらいの避暑地）民宿等も有ります。ゴルフ場もピンからキリまでたくさんありビジターでプレイ出来る所がたくさんあります。海へ行くにも車で1時間ちょい走れば海水浴、海釣りが楽しめます。是非訪問して見てください。



先日も、大坂支部のご夫妻が訪問して下さいましたが、私自身、まだ、退職者じゃないため、中々、時間がさげず、せっかくいらして頂いた会員の方のお世話が出来ないのが残念でたまりません。幸い、ゴルフ三昧で滞在を喜んで下さいました。わたしの引退まであと5年？其れまで待つて下さいとも言えませんが、先ず第一に、現地に住んで居る日本人のネットワーク作りが最大の関心事であります。退職してフィリピンマニラ近郊に住んでらっしゃる方、是非ご協力下さい。

日本の方がいらっしゃって下さり、生活をはじめの前に、色々なアドバイスが出来るような場を設けて協力して行きたいと思っています。それにより、相当の事故が防げるとしています。差し当たって、私の妻が、料理好きで趣味が高じて毎月、日本料理教室を自宅で、開催しております。その際、皆様にも門戸を開いてお集まり頂き、手作り料理に舌鼓を打って頂きながらのセミナーを実施して行きたいと思っています。マニラ近郊の日本人の方にもお集まり頂き、親交を深めて頂く場にも発展させたい考えです。なるべく2週間くらい前にはお誘いのメールを投稿させて頂きますのでお越しいただければ大変嬉しく思います。

それでは、マブハ～イ フィリピン

「脱老老介護」の環境を求めて

関東甲信越支部 No.98 加藤 泰三

私共は爺、婆の二人暮らし。

日々の老老介護にまつわる暗いニュースを見るにつけ、私共にも遠くない将来に訪れるであろうその事を見据えて数年前から北海道や沖縄、そして主として関東周辺の施設に体験入居など試みながら模索してきました。

施設は多数あるものの「介護付き有料老人ホーム」は高額で・・・とても無理、ケアハウスは夫婦の入居は難しく然も環境がいまいちのものが多く不本意ながら断念せざるを得ませんでした。

た。

そんな中、10年ほど前に3年間渡り鳥生活をしたフィリピンを見直そうと思い立ち昨年9月再訪比、ローズホームに2週間ステイしながらホームページで知った日本人を対象とした施設を見学に訪れたが建築中断中で、然も再開の目途も立っていないとか・・・今回の視察のメインだっただけにガッカリ・・・大変残念な思いをしました。

そして以前から再会を約していた旧知の渡辺さんと懐かしーい一本槍で食事しながらフィリピンでの介護の現状について人件費、医療関係、日常生活のことなど多岐に亘って懇談、その折に現在一般住宅に住みながら24時間の介護体制で生活している人の話を聞き、是非見学したいものと希望するも日程が取れず断念、次回を約して帰国しました。

どうしてもその事が諦められず、今年2月再々度の訪比、今回は渡辺さん宅にステイし、事前に提案しておいた諸問題について詳細な説明を受けながら諸方を見学、矢張り生活環境の選択も大切な要素である事を痛感しました。



最後に7年前に住居の購入を試みた事のある、夜間女性の一人歩きでも大丈夫なセキュリティのしっかりした、此処 BrentVille の貸家数軒を見学するも、なかなか意中のものが見つからずいた所、何とラッキーな事に帰国3日前に私共の希望にピッタリ有った家が見つかったんです・・・有りました！！5月に Brent School を卒業して韓国に帰る家族が住んでいる家が空くんです、然もフルファニッシュで・・・



その他の必需品も譲って頂けるので、新たに購入する労力も省けて大助かりです。

早速家主と契約、口座開設や家賃の支払小切手の発行など、すべて渡辺さんとスタッフのご尽力のお陰で無事済みしました。

只ただ感謝あるのみで心から厚くお礼申し上げます、本当に有難う御座いました。

室内のリホームが終える7月から又日比間を往き来しながらの生活が始まるので現在そのプランニングを楽しんでいます。



次回は一層美味しい蕎麦を食べて頂くために目下かえし(そばつゆ)の勉強中です、ご期待下さい。

渡辺さん、これからもどうぞよろしくお願致します。

茨城県つくば市

加藤 泰三 (86歳)

靖子 (80歳)

バギオの1年・パンガシナンの1年

バギオ・パンガシナン支部 No.227 齋木 一

支部名をバギオ支部から、バギオ・パンガシナン支部に変更した平成21年度もあっという間に終わってしまいました。会の10周年は私の在比10周年でもありましたが、11年目もう後半です。年の流れは本当に早いですね。

会も益々発展し、基盤も確立されていますが、会員の志向は年月の流れと共に、少しずつ変化している様に見受けられます。現在の会員の大半は「定住派」ではなく、「滞在派」と「渡り鳥派」の様に私には見受けられます。

フィリピンにはマニラ・セブ・ダバオ等に定住派が結構いる様です。バギオにも元会員の定住派や非会員ですが日本人の定住派が沢山住んでいます。残念ながら会員ではありませんが、パンガシナンにいる日本人は殆どが定住派です。

そこで今回は、「滞在派」や「渡り鳥派」とは違った「定住派」だけが知る、居住地の1年に目を向けて見ました。

バギオとパンガシナンは隣接した州ではありますが環境は全く違います。バギオが海拔1500mの高原の避暑地とすれば、パンガシナンは正に南国そのものです。日本の夏の群馬県と軽井沢とほぼ同じ様に考えていいでしょう。

私の住むパンガシナン州ウルダネタは言ってみれば、その群馬県の高崎市と同じ立地です。バギオへの上り口にある地方商業都市です。人口こそ20万人近くですが、中心地を除くと日本の昔の田舎町を連想します。

その両地区を一緒に説明する事は無理なので、それぞれに分けてその1年をお話する事にします。

「バギオの1年」

1月

1年で一番の大騒ぎの大晦日の後、一転して静かな1ヶ月です。1年で一番低温の時期でもあります。最低気温は12度程度、最高気温は23度で、時には最低が10度を下回る日もあり、冬の日本から来ても、寒いと感じる人も多

い時期です。

2月のフラワーフェスティバルを控えて、これと言った行事も無く、別荘地も静まりかえっています。乾季で雨は殆ど降らず、毎夜満天の星を楽しめます。

バギオ名物のイチゴがそろそろ店頭を賑わせます。平地から運ばれる南国の果物も豊富です。観光客も別荘族も少ない1月は定住者の天国です。

2月

前半は冬型の低温傾向が続きますが、20日を過ぎると段々と夏の高温の時期に向います。とは言っても高地バギオですから、日中の最高気温も精々26度くらいまでです。快晴の日が続く、雨は殆ど降りません、いよいよバギオのシーズン到来です。

バギオ最大の行事、フラワーフェスティバルが月初から3月第1週まで開催されます。前半にはチャイニーズ・ニューイヤーもあり、最後の土曜日・日曜日はバギオの人口の倍近い観衆を集めるフラワーパレードがあります。週末は、ホテルや貸し別荘はどこも予約で満杯です。

バギオが1年で一番華やかな1ヶ月です。

3月

いよいよ夏本番ですが、まだ朝晩はそれ程気温も上がらず、第1週のセッションロードで行われる歩行者天国は夜ともなると厚手のコートを羽織る人達の姿が目立ちます。道路中央の特設店舗に群がる人の波で歩くのも大変です。

イチゴはいよいよ甘さを増し、隣の州パンガシナン産のマンゴーが出回り、1kg50円と日本では信じられない値段でプリンの様なマンゴーが食べられます。

フェスタの後、暫くは真夏の最高の時期バギオも以外に閑散としています。まだ学生達が試験の時期で動けないからでしょう。乾季後半で天候は安定し、山地特有の夕立も殆どありません。

4月

いよいよ学校の期末・夏休みの時期に入り、

バギオは連日マニラ首都圏からの避暑客や観光客で賑わいます。乾季も終盤に入り、月の後半は夜間に強い雨に見舞われますが、ゴルフには支障ありません。

気温は1年で最も高温の時期ですが、それでも最高気温が30度を超すことはありません。最低気温は18度前後で快適な毎日です。

太平洋戦争で日本軍が占領していたバギオを米軍が奪還した25日をバギオ解放の日として祝っていましたが、最近は国際親善の日と名称を変えました。対日批判はもう過去のものです。

5月

そろそろ季節の変わり目で、連日の様に強い夕立が何回もあります。まだ午前中は好天でゴルフに影響はありません。期末・夏休みの学生達が一番目立つ時期で、夜行・夜行帰りの元気な若者たちで早朝からバギオの中心、バーナム公園は賑やかな声が響き渡ります。

まだ高温の時期ですが、午後のレインシャワーで急に気温が低下して、肌寒く感じる事もあります。名産のイチゴもそろそろ店頭の主役から退きます。マンゴやスイカ、バナナ、パイナップルと南国の果物で相変わらず店頭は華やかです。

6月

季節は雨季に移りますが、強い夕立主体の陽性な雨季です。夏の暑さは一服しますが、まだ気温はそれ程下がりません。ラニーニャの時期はフィリピン近海で連続して小型の台風が発生し、大雨を齎す事もあります。

6月からの雨季の時期は、バギオから世界遺産の棚田のあるバナウエへは山岳コースを避け、下山する大迂回コースになり、バギオからの観光コースとしてはお薦め出来なくなります。

この時期は、同じ世界遺産に登録された古都ビガンや、バロック建築の教会群のある南シナ海沿岸がお薦めです。

7月

いよいよ雨季本番ですが、前半は夕立中心の

陽性なタイプです。ゴルフが出来なくなる様な終日の雨はそうはありません。高原野菜も豊富で、食卓を賑わせます。

7月は、毎年日比友好月間になっていて、特に月中の1日は日本デーに指定されますから、バギオでも日本に因んだ各種のイベントが花盛りです。雨季の閑散期でホテルの値引きも始まります。それでも平日は観光客の姿は殆ど見掛けなくなります。これから暫くは住人達の町です。

8月

バギオに住む人達が一様に洗濯物が乾かないと嘆く、まるで日本の梅雨の様な天気は毎日続きます。1週間以上全く太陽が姿を見せない事も珍しくありません。

最高気温はそれ程高くはありませんが、湿度が高く、日本からの避暑目的にはとても適地とは言えません。ゴルフも出来ない日が多く、家でのんびり読書かPCに向うのに適した気候です。

短期滞在の渡り鳥派の方々にはとてもお薦め出来ません。

9月

1日はバギオ市制施行記念日で、例年パレードがありますが、いつも天候を心配しています。210日は日本でも台風が良く襲来する日の代名詞ですが、その台風はフィリピン近海で発生します。

日本に行く前に北ルソンにも良く立ち寄ります。9月初旬から10月下旬までは大型台風を警戒する時期です。上旬は8月と良く似た梅雨型の天候ですが、中旬からは晴れる日も大きくなりますので、台風情報は欠かせません。

登山道路が通行止めになる事もあり、マニラへの途中の道路の出水も心配の時期で、日程のきつい短期旅行にはバギオは適さないでしょう。

10月

時として大型台風の襲来もありますが、天候は乾季に向って確実に変化する時期です。過去

には殆ど雨が降らない時もありました。良く会員の来訪がある月ですが、雨に祟られた会員はまだいません。

昨年10月9日の迷走台風17号は、バギオ周辺でも土砂崩れで多くの被害が発生しました。バギオの登山道路ケノンロードにはその生々しいつめ跡が各所に残っています。

日本では余り知られていない国連デーをフィリピンでは盛大に祝っています。バギオでも国際都市らしく学校等で民族衣装を着た子供達のパーティが開催されます。天候が回復傾向でゴルフカーには待望の月です。

ホテルは乾季の料金に戻ります。

11月

その規模の大きさにギネスブックにも載っているコンペが後半から開催され、市内2ヶ所のゴルフコースでは20日間近く一般のプレイが出来なくなります。

月初には大型連休「万聖節」があり、ホテルはクリスマス、聖週間と並んで特別高額料金になります。マニラからのバスも軒並み満員なので、移動する時は、月初は避けるべきでしょう。

天候は安定し、雨は殆ど降らなくなります。高温の時期から、低温の時期に移行します。放射冷却も始まり、夜間に外出する時には、厚手のコートが手離せません。

12月

日本と違い、お歳暮こそありませんが、クリスマスギフトを買い求める人達でモールは連日多くの人達でごった返します。マニラほどの派手さはありませんが、店や家々は美しいクリスマス・イルミネーションが輝きを増します。

20日頃から別荘族や観光客がバギオを目指し、主要幹線道路も各所で渋滞が目立ちます。観光がてらバギオの新鮮な高原野菜を求める人達で野菜市場は1年で最高の人出です。料金もやや高めにのります。

クリスマス・イブには必ずバギオ大聖堂とカントリークラブが各TVで映し出され、その為に芸能人も多く滞在し、それを目当ての追っか

け族が町中を跋扈します。

高級別荘に滞在する富裕層は、この時期ホームパーティを盛んに行い、お互いに行き来しています。フィリピンでは滅多にお目にかかれない毛皮のコートまで散見されます。

この時期にバギオに滞在していると、高級別荘地に住む日本人から同国人だと言う理由だけで、華やかなクリスマス・パーティに招待されるなどと言う事が現実に起り得ます。

それでは、下界の1年はどうでしょう。

「パンガシナンの1年」

1月

パンガシナンの元旦は、大騒ぎをした大晦日のカウントダウンの後始末から始まります。眠い目をこすりながら家の前の道路の清掃です。乾季の低温の時期で低地でも最低気温は18度程度です。日中も28度前後ですから、1年で一番過しやすい時期です。

田園地帯の町々では、新年になっても雨季米取り入れ後のフェスタが盛んに行われます。そこそこの町なら必ずあるリゾートホテルのプールもこの気温では人影もまばらです。新年会の風習も無く、割合と静かな1年の幕開けです。

2月

月初は前月からの低温傾向が続きますが、20日頃一基に気温が上昇し、真夏に突入します。一晩で気温は5度前後上り、寝苦しい熱帯夜も頻繁です。

14日のバレンタインデー前後には町々で若者達のダンスパーティが盛んに開かれます。各学校はハート型や赤いバラで美しく飾り付けられます。子供達のミス・ミスターコンテストもあり、フラワーカーで町が目抜き通りをパレードします。

バレンタインデーの後、月末までの間は高校の高学年生達のJ Sプロムが男子はスーツ、女子はロングドレスの正装で行われます。若者らしいアップテンポの曲の中にフォークダンスも組み込まれるのは、スペイン統治地代の名残り

でしょう。

3月

乾季後半は高温の時期です。最高気温が35度前後にも達します。最低気温も25度前後まで上がり寝苦しい夜の季節の到来です。

月末近くには小学校の卒業式がめじろ押しです。自治体の首長や政治家が出席するので日程調整が大変です。直前の日程変更もしばしばです。角帽・ガウン姿の卒業生は可愛いものです。

月初の期末試験が終ると学校は日程調整の様でよく休校になります。平日でもリゾートのプールに子供達の姿が多く見られる様になります。

南シナ海に面したリングエン湾沿いの海岸は、家族客で賑わいます。パンガシナン産のマンゴが甘さを増し、値段も安くなります。

4月

月初は、カトリック最大の行事、ホーリーウィーク(聖週間)です。約1週間続くこの期間中、特に歴史のあるマナワグ、カラシャオ等は多くの敬虔な信者を集めます。

16世紀後半にパンガシナンに侵攻したスペインによって建てられた多くの教会群が沿岸地域を中心に州内に点在しています。その時期既にマニラの日本人町より早く、州内のアゴーに日本人町があったとの記述もあります。

ホーリーウィーク前後は高校・大学の卒業式シーズンです。日本の謝恩会と同じ様な正装した学生達のパーティが開かれ、深夜まで続きます。

高温傾向が続き、夕立の回数も段々増えてきます。週末はバギオに向う車で幹線道路は各所で渋滞します。

5月

いよいよ南国の夏本番です。最高気温は連日35度前後にもなりますが、夕立も一日何回もあり、雨の後は凌ぎ易く、昨今の日本の様な酷暑の感じはありません。気持ちの良い夏です。

学校が休みなので、涼しいモールでパラパラ(ウインドウショッピング)する学生達で連日大混雑です。都会に出たファミリーの子供達が田

舎の親戚を頼って滞在します。反対に田舎の子供達は都会の親戚を目指します。

仕事の無い親達も一緒の場合も多く、民族の大移動の様相です。我家の近くでも日頃見かけない顔が多くなる季節です。

フィリピンの国民的スポーツのバスケットボールのシーズンで、町内対抗など連日連夜熱戦が続きます。ユニフォームや、飲み物代などの寄付の依頼が次から次へと舞い込みます。

6月

フィリピン近海で台風が発生する様になり、数日間台風の影響の雨が降る様になりますが、この頃の雨は台風が上陸しない限り余り強くは降りません。異常気象の影響か、最近の6月はカラ梅雨の様です。

第1月曜日から学校は新学期です。日本の様な入学式はありません。学校が再開されて、町は再び送迎の為にトライシクルの大行列が平日の風物詩です。

運転手の収入も増えて、町は活気付きます。新学期用の学用品購入の為に親たちは金策に走り回ります。妻のファミリー等から借金の話が度々あります、本音は支援なので貸しても先ず戻っては来ません。要注意です。

7月

段々と朝から雨の日が多くなります。フィリピン近海で台風が次々に発生しますが、この時期の台風は小型が多く、スピードが遅い雨台風が特徴です。雨季米の田植えのシーズンで、臨時雇いで収入を得る事もありモールは活気があります。日傘から雨傘に変更です。

気温は相変わらず高温傾向ですが、シャワーがあると気温が下がるので、この時期が好きなフィリピン人も多く、私自身も最近フィリピン人の気持ちと同じです。カラフルな傘で外出時女性達はおしゃれ気分です。

後半、日本が夏休みになると日本人と結婚したフィリピン人妻が、子供と一緒に実家に戻っ

て来ます。意外な場所で日本語を聞く事が良くあります。

8月

バギオと同じで下界も連日の雨模様で、日本の梅雨の気分です。その分気温は低めになって来ます。南国の太陽も垂れ込めた雲に遮られ、朝起きるのが億劫になるのもこの時期です。

これと言った行事も無く、家でのんびりと過ごす事が多い1ヶ月です。8月15日の終戦記念日だけは例外で、マニラ郊外のカリラヤにある日本政府建立の日本庭園内にある戦没者慰霊碑で行われる慰霊祭に3日掛りで出掛けます。

日本のお盆休みの頃は、家族を追って来比する日本人の父親がファミリーで買物をする姿をよくスーパーで見掛けます。残念ながら日本人と判ると警戒されてしまうので、親しく話す事は余りありません。

フィリピンに居る日本人には気をつけろが、私にも適用されてしまいます。淋しいですね。

9月

末尾にERが付く月はフィリピンではクリスマス・シーズンだそうで、気の早い家では、イルミネーションに点灯し、クリスマス・ツリーを倉庫から引っ張り出します。モールのバーゲンで少しずつファミリーへのプレゼントを買い集めます。

梅雨の様な気候も上旬までで、段々朝から好天に恵まれる様になります。片道2時間のバギオまでちょっとドライブしたいと思う日々です。好天の週末はリングエン湾沿いのリゾートが賑わいます。気温はそれ程上がりません。

10月

そろそろ雨季末期で天候も段々安定して来ますが、この時期の台風はフィリピンから離れた場所で発生し、発達してから上陸する台風は要注意です。昨年10月の台風15号、17号がよい例です。

雨季米の収穫の時期で、農家の現金収入を狙ったセールが頻繁にあります。道路工事も再開

され日雇いの仕事も沢山出て来ます。天候が良くなるので、この時期に着工する住宅も多く、大工の仕事も増えて来ます。

モールや商店からは早々とクリスマス・ソングも聞こえて来ます。学生達は科目毎のコンテストが頻繁にあり、成績優秀者は校門等に垂れ幕で掲示されます。親たちが一喜一憂する時期です。

11月

気候は完全に乾季に移行し、夜間の放射冷却もあり、最低気温が20度以下の日が多くなります。まだ日中は30度を越しますが、余り暑いとは思わなくなります。朝晩は長袖を引っ張り出します。

月初の「万聖節」の大型連休は、日本のお盆と同じで墓参りに為に都会に出ていたファミリーが沢山戻って来ます。終日墓地のお墓の前、時には場所が無く墓の上で終日過します。食事や飲みもの持参でピクニック気分です。

雨季米収穫後のタウンフェスタが盛んに行われます。子供から大人までのミス・ミスターコンテストが一番の人気です。投票で選ばれるフェスタクイーンは、投票用紙を沢山混入する海外からの帰国した年配の女性の場合が大半です。

町のリゾートのプールは閑散としていて、宿泊客が寒そうにしています。夜はプールサイドでのバーベキューパーティーに人気があります。町はクリスマス・シーズンに向けて段々盛り上がりが出て来ます。

12月

私の住む田舎町、ウルダネタは1日からタウンフェスタが10日間続きます。公立の小学校と高校はこの期間休校になります。連日連夜町の文化会館ではいろいろな催しが開催され、全て無料なので近郷近在からも人が集まってきます。

一番の人気は、「ミス・ゲイ」コンテストで4千人は収容出来る文化会館も入場するのが大変です。その他「プラスバンドコンテスト」「フォークダンス・コンテスト」等が開催されます。

タウンフェスタクイーンに選ばれる為には、3千万円相当の投票券を集めないと駄目と言う噂です。昨年は市長から妻が出馬を要請され、私は顔面蒼白になって、市長に辞退を御願ひした経緯があります。

日本人＝金持ちの図式は私には適用されないと必死で抗弁しました。夜逃げはしたくありません。投票券の売却益がフェスタの予算になります。

学校は20日前からクリスマス休暇です。その直前に行われるクリスマス。パーティでもミス・ミスターコンテストがあります。矢張り投票様式で、娘の小学校のミスは40万円掛ったそうです。

その他に、パレードのフラワーカーの制作費、ロングドレス、パレードでファミリーが着用する揃いのTシャツ、打ち上げパーティの食事代などで百万円近くになってしまうと聞きました。剣呑、剣呑。

15日から9日間は、敬虔なカトリックの大切な行事、シンバンガビです。深夜（早朝）のミサに歩いて教会に通います。若者たちにはいいデートの口実になるので人気があります。

我家から協会までは片道1時間半ですが、その期間に必ず2～3度妻とスタッフで歩いて教会に通います。私は車で追尾して落伍者の収容担当です。誰が落伍の常習者かはシークレットです。

クリスマスが終ると、いよいよ連夜のダンスパーティです。市長主催の2千人規模のパーティも2回開催されます。その他町内会、若手、老人会とほぼ1週間の間にウルダネタ市内だけでも百回以上開催されています。

パンガシナン州全体では大変な数になります。毎日参加しては体が持ちません。なにしろ午後8時開始、終了は日の出です。

そして、1年の最後を締め括るのが大晦日のカウントダウンです。日没を待たずに打ち上げる花火は、各家庭からの花火を加え午後11時半頃からピークを迎えます。

その大音響は、家の中での話し声もかき消されてしまうほどです。この日の為に借金までし

て花火を買います。カラオケで楽しむ家も多く、大騒ぎの内に1年が終わります。

陽気なフィリピン人を象徴する大晦日の風景です。

こんな1年をもう11回も経験しましたが、多くの人たちに囲まれて寂しさなど微塵も感じないのがフィリピンでの1年です。

バギオでもパンガシナンでも、ここにいればこれからも老後の寂寥感とは無縁で済みそうです。私は今68才ですが、フィリピン人の元気を貰えば後30年は大丈夫でしょう。

会報40周年記念号への寄稿を楽しみにしています?????

ダバオと日本人の歴史

関西支部 No.1261 藤本 晴久

マニラ、セブといえばフィリピンの都市だとおわかりの方は多いと思いますがダバオがフィリピンの都市だにご存知の方は少ないと思います。

しかしダバオと日本のつながりは戦前からあり多数の日本人がすんでいました。

事の初めはマニラで太田商店を営む太田恭三郎という人物が1903年から1904年にかけてアバカ（マニラ麻）の栽培を行うため180名の日本人をダバオで従事させたのが最初でした。

このマニラ麻の繊維は強靱で軽く、耐湿性があるため船舶用のロープとして最適で当時のフィリピンの重要な輸出産物でした。太田商店にくわえ1917年に古川拓殖が設立され益々栽培産業は隆盛を極めそれに伴い入植者も増加していきました。1905年350名、1918年6500名、1939年18000名、最大で19000名を超える日本人がダバオに住んでおり当時フィリピン全土で日本人の居住者が27000人といわれる中で70%がダバオに住んでいたことになり13の学校があり児童数も1400名以上であったことも含め大規模だったことがわかります。ちなみに昨年10月

に発表された邦人の数は736名であり現在と比べものにならない数の邦人が住んでいました。これは当時中国北東部（満州）に次ぐ規模であったそうです。今でこそ日本-ダバオが飛行時間6時間少々で来られるが当時の状況を考えてかなりの決断で渡ってこられたのであろう。私の叔母はブラジル移民で神戸から出港する時見送りに行った記憶があるが幼いながら今生の別れになりかねない重苦しい雰囲気があったことを覚えている。現在の日本人といえば島国根性があるとみる外国人もいるかも知れませんが戦前の日本人の勇気やフロンティア精神には学ぶことが多いように思えます。

これらの様子はダバオ近郊カリナンにある日本歴史資料館に詳しい資料が展示されておりま

す。その中で戦前のダバオ市内の手書きの地図がありこれによると日本人経営のワタリ時計店の横に山村クスリ店といった具合でダバオに住んでいるというよりまさに日本人の街そのものをダバオに作ったという状況がわかり現在のダウタウン形成に日本人が深くかかわった事がうかがえます。

日本軍による開戦で在留邦人の生活は一変し、まず米軍による強制収容が行われ日本軍上陸後解放されるが軍への協力を余儀なくされ抗日ゲリラ掃討作戦にかかわることになる。この時フィリピン民間人にも多数の犠牲者がで、日本人=野蛮人のイメージが今でも残っているのも事実であると思う。戦争当時においてはダバオからも特攻の戦闘機が飛び立っていることも日本人で知っている方もすくないであろう。日本敗



フィリピン日本歴史資料館



戦前のダバオシティホール周辺の手書きの地図



アバカ麻



現在の状況（シティホールに向かって）
面影はない

戦以降はさらに悲劇で十分な食料のないなか山間部への逃避、一部の方々は帰還できたが他のかたは日本人であることや日本人の血が流れていることを隠して生きていかねばならず現在に至っている。現在も同じであるが土地所有は外国人には認められず現地の人と結婚し妻名義で栽培農地を拡大していったため日系人が増加した原因といわれており、日本人を先祖にもたれている方は3000人とも4000人とも言われ問題の大きさがわかる。

ただその反面、私の友達の日系人は彼の曾祖父が日本人で父親は貧しいながら大学を卒業し、彼も優秀な大学を卒業しており日本人の血は8分の1にはなっているにもかかわらず目が細い

ことを冗談をまじえ語っている姿をみると日本人のアイデンティティははるかに大きいものであることがわかる。はるか遠くの祖国が技術立国として繁栄してるのを横目に見ながら日本人としての誇りを持ち続けているのであろう。私はダバオに来る前の知識としてはバナナの日本向け輸出が多いことぐらいの知識がなかったがここに住んでこれほどまで日本と関わりのある地域であったことに驚いている。今回の原稿依頼でいろいろ調べてみましたがまだまだ知らなかったことが多く熱帯地域独特の明るさと人を思いやる優しい人が多いこの地域の居心地のよさから現在の事しか気が回っていないが機会があれば先人の足跡を訪ねたいと思っている。

フィリピンでのボランティア活動

フィリピンでLS中の会員、シーズンステイの会員、訪問された会員、多くの会員が各地域でさまざまなボランティア活動に参加しています。ここでは、設立に南の会の会員が大きく関わった「ダピタン会」の学資支援活動とダバオに訪問した会員の多くが、ホテルの紹介、アパート探し、病気やトラブルにあった場合に心強いサポートをしていただき、多くの方が加入しているNGO「日本フィリピンボランティア協会」(JPVA)より寄稿して頂きました。(編集委員会)

ダピタン会の紹介

関東甲信越支部 No.342
佐藤 勝 (ダピタン会会長)

私どものボランティア団体『ダピタン会』を此処に紹介させていただきます。

『ダピタン会』は其の名の通りフィリピン・ミンダナオ島ダピタン市に由来するものです。Dapitan・Cityは北サンボアンガ州の小さな町でホセ・リサールの流刑地として有名なところです。市内にはフィリピン建国の父、リサールを記念する公園があります。

まずは、其のDapitan・Cityでの出来ごとからお話したいと思います。

今から10年ほど前に一人の少女がある家の前で泣いていたそうです。なぜ泣いているのか理

由は定かではなかったのですが、K氏は一夜明けても、昨日の少女のことが気になり訳を尋ねて見たのです。貧しさから大学に進学する学費が払えないとの事だという話を家人から聞いたそうです。

そこで、その学費を訊ねてみればほんの僅かのポケットマネーで済む金額でした。K氏は当時を懐かしくそう回顧するのです。

我々日本人からすればごく僅かな金額(月々の煙草代程度であったということでした。今現在は授業料の値上げ等もあり援助額も多少上がっては居ります)ではありましたが、それが年間の大学の授業料だったのです。

暫くしてこの話を聞いた有志が集い、支援をして行こうとの輪が出来ました。当初4・5人の

賛同者の方々の結集が此の『ダピタン会』の始まりと聞きます。

当時は手探りの状態でもあり、南国暮らしの会を中心にしたスポンサー会員が主でしたが、現在では貴会から独立し、口コミで其の輪が広がり現在50余名ほどの学生を支援する会と成りました。

『ダピタン会』は生徒一人に対しスポンサー会員（支援者）一人が原則です。1対1の関係は顔の見える形での支援となります。

支援金の年間授業料は全額大学に払い込み、スカラー生個人の手には渡りません。

まさに里親、自分の子供と言うことになりコミュニケーションは生徒から各々スポンサーに手紙が届けられ、また卒業式への参加などでの交流がなされます。卒業式は毎年3月下旬から4月の初めに行われます。

昨年（'08年度）の卒業式では、'09年度からはホセ・リサルメモリアル・カレッジから学校名がユニバーシティに昇格されるという学長の発表がありました。

私も現地での卒業式に複数回参加をさせて頂き感激、感動を肌で感じる事が出来ました。これは私たち会員、生徒たちを支援するスポンサーとしての大きな喜びです。

『ダピタン会』会員、スポンサーとしての入退会はいつ、いかなる時でも自由に選択できる訳ですが、只一つだけ条件があります。中途退会



は生徒が宙ぶらりんになる恐れがありますので、引き受けた生徒の卒業までの支援金をご援助頂くことになります。

一見して、この子たちが貧困だということはとても信じられません。

着衣に継ぎハギしたものを着ている訳ではありませんし、身なりもキチンとしています。しかし其の子たちの家を訪れると一目瞭然貧しさがわかります。



まるで星空の見えるようなバンブーハウスに住んでいる子供たちも居るのです。

辺びな山奥に住み通学できない子供は大学周辺の親戚・知人の家にお世話になりながら勉学にいそしんでおります。

そんな彼、彼女たちが瞳を輝かせ将来の夢に向かって一生懸命に勉学に励む姿はいじらしく愛おしい子供たちと私たちには強烈な印象で写ります。

大学は出たけれど・・・百年に一度と言われる平成の大不況の下、今この日本でさえも就職難と言われる今日、平時に於いてもさしたる産業もなく就職口の乏しいのがこれまたフィリピンなのです。だからこそ安定した職業に就くためには大学卒業資格は必須ともいえるのです。

そんな中でも過去'06年度卒業の『ダピタン会』スカラー生であった A 譲は全校生徒の中に於いて首席で卒業となり学長表彰も授与された、というような輝かしい実績もあります。私たち卒業式出席者はなんとも誇らしい気持ちと、言いやうのない興奮をスカラー生から頂いたものです。

或いは一例をあげれば、現在でも電気の灯らない小さな離れ小島の少年は村人たちの期待を一身に受けて頑張りました。今では、高校の教師となり活躍している青年も現実に存在いたします。とは言ってもそれらはごく一部のスカラー生に限られてもいるのです。



ほんのわずかな金品にも満たされず、不自由な暮らしを余儀なくされている子供たちですが、将来への夢は果てしなく大きく膨らんでいます。

そんな子供たちを応援、支援するのが私たち『ダピタン会』です。

毎年、学年成績が上位5番までにランクされる生徒で、且つ親の年収が貳拾万円（10万ペソ）以下という生徒に限られ、市内各高校校長の推薦よる、との条件があります。

しかし乍ら スポンサー会員の支援できる数には制限があります。

『ダピタン会』に申し込みをする生徒全員を受け入れられる訳では有りません。其の中からさらにフルイに掛け、年度に与えられた数名、或いは十数名だけが憧れの大学の門をくぐれるという実に狭き門でもあります。

選考に当たっては各高校の成績上位5番目までに入っているとはいえ、其の中の生徒からも

さらに成績上位者を選ばざるを得ません。

合わせて将来に対する自分の生き方、また今後の夢、と言った小論文も重要な選考の基準と成ります。出来得ることなら申し込みをした子供たち全員の夢を叶えてやりたいのが人情なのですが・・・。従ってここでも又、泣く子供達の出るのは仕方のないことなのです。何とも世の無情を感じないわけには参りません。

そんな中、今年が駄目ならまた来年再挑戦するという根性が入った生徒もおりますが、反面に於いては学業半ばにして家計を支える為にやむなく、中途退学をしていく生徒の居るのもこれまた事実なのです。

学歴、それは子供たちにとっては何より大事なことではありますが“先ずは食わねば成らない”と言うのが先決優先です。いわゆる家庭の事情なのです。

今更ながら私たちはこの日本に生まれたことに幸せを感じ、改めて感謝の気持ちを強く持つものです。

私は今、二人の女子学生を支援しているのですが、一人は今年最終学年を迎えます。卒業後は教職を目指して頑張っていますが、それこそ簡単な道のりではないと思います。

この子は両親がなく、おばさんの家にお世話になり大学からも近くなので徒歩での通学が可能と比較的に恵まれては居りますが、他の皆と同じように貧困な状態に何ら変わりはありません。

願わくば大学卒業後は本人の希望通り教職につければ私としてはこの上のない喜びとなるでしょうし、そして又今日までスポンサーとして応援してきた甲斐もあろうというものです。

これは、こと私に限ったことではなくスカラースターを受け持つスポンサー一人ひとりの切なる願いなのです。

限りない喜びと希望を持って、明日に向かっ

て羽ばたいて欲しい、そんな願いを私たち支援者は常に願っているのです。

『ダピタン会』は年に数回は懇親会を開催して居りますが、貴南国暮らしの会同様、会員は全国に居られますので、なかなか全会員が一同に集うことは出来ません。

総会は年に一度5月中旬に東京で行われ『ダピタン会』発展のために活発な質疑が行われます。会が膨らむだけが最良とは考えませんが、私たちの善意が少しでも多くの子供たちの笑顔と結びつくことを常に会員一同が心から願っていることなのです。

以上『ダピタン会』を紹介させて頂きました。

介護はダバオで！

NGO日本フィリピンボランティア協会 (JPVA)
ダバオ事務所コーディネーター
谷口 りか

皆さんこんにちは！南の島でのんびりと暮らしたい。或いは、退職後はゆっくり夫婦で少し物価の安いアジアの国で過ごしたい・・・でも、ご自分達が海外に出て、高齢になったご両親の面倒は誰が見る？自分達が将来介護が必要になったらどうしよう・・・とお悩みの方はいらっしやいませんか？そんな皆さんに最適の滞在地をご紹介させていただきます。

テーマは“「介護」「リハビリ」を受けながら南の国で暮らす”

フィリピン・ミンダナオ島 ダバオ市は海も山もあります。そして子供達の明るい笑顔が溢れています。マニラやセブに比べて日本人の方がまだまだ少く、ゴルフ場やダイビングスポットもありますが、観光地としては発展してません。ダバオの人もまだまだ素朴で、親しみやすいです。

ダバオのメリットはいくつかあります。

1. 物価がマニラやセブに比べても安い。

ダバオはまだまだ地方都市です。そしてダバ



オの産業は農業。バナナやパイナップルを世界に輸出しています。日本が輸入しているバナナの95%はダバオから輸出しています。年間100万トンとも言われています。ダバオにはたくさんの果物があり、また海に面していて、魚介類もたくさん市場に並んでいます。お野菜も含め食材が豊富で、そして安いです。

家賃も1万ペソ前後の一軒屋から3万ペソ位の家具付きアパートまで色々な物件があります。

2. 治安が良い。

ダバオはミンダナオ島にあり、日本に入る情報ではとても危ない地域だと思われがちです。

しかし、実際はマニラやセブに比べても犯罪件数も少ないですし、日本人を狙った凶悪事件などは私がこちらに来てから聞いた事ありません。タクシーもメーターで走りますし、夜の外出も怖い思いをした事ありません。

3. 英語が通じる。

ダバオではビサヤ語が話されています。こちらの人にはフィリピンの共通語として英語とタガログ語の勉強をしなければなりません。そのため、マニラのようなタガログ語で生活している人に比べると英語能力が高いそうです。

もちろんフィリピン訛り・・・はない、とは言えませんが・・・

4. 気候が良い

フィリピンには雨季・乾季があるといわれていますが、ダバオ市は年間を通して殆ど毎日雨



が降ります。そのお陰で農業が盛んなのかもしれない。そして台風が来ません。

暖かい国に、日本の寒い時期に滞在したいと言われる方も多いですが、私は日本の湿度の高い蒸し暑い夏の時期に、こちらの朝夕涼しく、カラッとした過ごしやすい夏を過ごしていただくのもお勧めだと思っています。

5. フィリピン日系人会、日系人会国際学校、ミンダナオ国際大学がある。

もちろん英語が通じるという事はフィリピンどこも同じですが、ダバオは日本語を話すフィリピン人、特に子供達がたくさんいます。こちらを訪ねてみてください。子供達が元気に皆さんに「こんにちは」と挨拶をしてくるはずですよ！外国ではありますが、なぜか親しみの湧く町です。

そして、日系人会総合クリニックが敷地内にあり、病気になっても安心！

そしてダバオにしかない「最大のメリット」・・・それは、「介護」や「リハビリ」を提供できるという点です。私ども日本フィリピンボランティア協会は、ダバオで約20年間NGOとして活動して参りました。

日系人の支援から始まり、地域の医療、環境問題への取り組み。そして「介護」という事に対しましても、長年取り組んでおります。フィリピンスタッフを日本の老人ホームに派遣し研修を行い、日本語はもちろん、日本の介護技術もしっかり学んで参りました。また、スタッフ



はフィリピンの看護婦や歯科医、薬剤師、理学療法士など、医療従事の資格を持っています。日本人スタッフも4名駐在しております。

また、当協会が創設いたしましたミンダナオ国際大学には社会福祉学科高齢者福祉専門コースがあり、3月26日には5期目の学生が卒業いたしました。ダバオにお越しいただいた皆様のお世話をしたいとたくさんの卒業生が待っています。

安心してこちらで介護やリハビリを受けていただく準備は整えております！！
ご利用料金は以下の通りです。

介護士利用料金：

お問い合わせ下さい。

リハビリ費用：

1セッション（1日） / 500ペソ

他にも、当協会会員の方を対象に以下のようなサービスも行っております。南の会の皆様にも広くご利用いただいております。

1. マリナオンドミトリー
利用 1泊 / 2,000ペソ～
1ヶ月 / 20,000ペソ～
2. レンタカーサービス
3. ダバオ市ガイド



4. ダバオ市内ホテル予約（特別割引有り / インシュラー、アポビュー、マルコポーロ等）
5. フィリピン退職者ビザ取得サポート
6. ビザ延長付き添い
7. 病院付き添い
8. 住宅探しお手伝い
9. 英会話の勉強（1ヶ月 / 20回 / 10000ペソ
手数料別途 5000ペソ初回）

興味、ご関心をお持ちの方は是非「日本フィリピンボランティア協会」までお電話、メールにてお問い合わせください。ホームページもございます。

東京事務局：

〒182-0006

東京都調布市西つつじヶ丘2-30-1

TEL：03-5384-9536

FAX：03-3326-5037

担当：中井

ダバオ事務所：

Malinawon Dormitory, PNJK-Compound,
Angliongto Ave., Lanang, Davao City 8000,
Philippines

TEL：(63) 82-235-1865

FAX：(63) 82-235-1863

担当：谷口

人との出会いが楽しいハワイのロングステイ

関西支部 No.891 徳永 卓雄

冬の寒さが一段と厳しくなった1月中旬から2月下旬まで心地よい暖かさのホノルルでロングステイを満喫しました。海外ロングステイの楽しみの一つは異文化の人々との交流そして趣味やスポーツを通じて新しい友人たちとお付き合いが広がることでしょう。

1. グランドゴルフのプレーを楽しむ

今回の私たちのハワイロングステイは昨年2月に10日余りのショートステイをした時、仲間に入れてもらったグランドゴルフクラブのメンバーとの再会からスタートしました。パールハーバーのプライスデルパークとアラモアナセンター海側に広がるアラモアナビーチパークでグランドゴルフのプレーを毎週楽しんでいる20人余りのハワイ在住の日系人と冬の間をハワイで過ごす7組の日本人夫婦が主なメンバーです。

帰国するまで毎週2回、グランドゴルフのプレーを楽しみました。ビーチを散策中のサンフランシスコから来たアメリカ人夫妻の奥様の郷里が私の出身地、北九州市の隣町だと判って話が弾みました。

引退するまで建設会社を経営していたご主人は大の日本びいきのアメリカ人。それからずっと一緒にグランドゴルフを楽しむようになりました。

2. 男声合唱団の練習に参加する

次の新しい出会いは水曜日のグランドゴルフの帰路、市バスの中で見かけた「Aloha Chorus」男声合唱団の団員募集の広告が目にとまったことから始まりました。その広告にはアカペラハーモニー習得、歌唱力の向上、永続する友人、自分と家族の人生を豊かにするなどのメリットがあると書かれていました。翌日、午後7時、ワイキキバニアン部屋の眼下に

広がるアラワイゴルフコースのクラブハウス2階の練習会場を訪れました。見学を申し入れたところ10曲余りの練習曲の楽譜の入った分厚いファイルを渡されました。応対してくれた役員さんに日本で18年男声合唱をやっていると言ったところ自分は50年だとあっさり言われました。アメリカ人特有のジョークかと一瞬思いましたが、直後に団員歴62年の最古参の方を紹介され、アメリカでも有数の歴史を誇る合唱団だということが納得できました。練習は身体ストレッチから始まって発声練習、練習曲と日本とほぼ同じような順番でしたが、休憩時間を除いた2時間以上の練習の間、4段ある扇形の特設ステージに立ったまま全員が歌い続けていました。椅子に座ったままで練習している私たちとの体力差を感じました。それから皆の前で紹介された私に向かって友を迎える喜びの



歌の合唱があり、40人ほどの団員が一列になって一人ずつ歓迎の言葉と握手をして通り過ぎるという儀式がありました。翌週、ワイキキから30分程の郊外のレストランで開催された団の年次総会と夕食会に招かれました。総会では10名ほどの新年度の役員が壇上で誓いの言葉を全員で唱えたり、4人の奥さんの前で旦那さんがカルテットで愛の歌を熱唱するなどアメリカらしい演出がありました。



そんななか団員歴20年以上の2人の日本人の方との交流が始まりました。特に、ハワイ在住23年のYさんとは家内が同じ滋賀県の出身で郷土料理の鮎寿司が2人の大好物だったり、昭和40年から3年間のほぼ同じ時期にニューヨークで駐在員生活を経験するなどの共通点がわかりました。大都会ニューヨークが完全に麻痺した地下鉄・バスの長期ストライキや北米東部の大停電での体験話を懐かしく語り合いました。Yさんにはその後もオバマ大統領がプレーするゴルフコースのクラブハウスでの食事やパールハーバーのアリゾナ記念館への案内それに彼がもう一つ所属している合唱団ホノルルシンフォニーコーラスという混声合唱団の練習会場、ハワイ大学音楽科のホールに案内してくれて韓国出身の女性指揮者やメンバーの韓国人夫妻への紹介など大変親切にいただきました。

3. ウクレレとヨガのレッスンと毎日の生活

グランドゴルフ、ワイキキビーチでのフラ・ショー見物、食材の買物それにウクレレとヨガのレッスンなどで1ヶ月があっという間に過ぎ、ハワイの素晴らしい自然に触れていないのに気がつきました。帰国までの最後の10日間はオールドハワイの雰囲気のある町ハレイワ、ノースショアのサンセットビーチやタートルベイ、カイルアビーチ、ラニカイビーチ、シーライフパーク、マカプー岬、ハナウマ湾、などガイドブックに出ている名所をバスを利用して訪れました。ノースビーチではサーフィン禁止の強風が吹き荒れ名高い大波を見て自然の脅威をまのあたりにしました。残念ながらビッグウエーブに乗る



サーファーや海亀には出会えませんでした、次の機会を期待しています。

滞在中の最初の1ヶ月は殆ど毎日のようにウクレレのレッスンをうけました。ロイヤルハワイアンショッピングセンター2階のフードコート、シェラトンワイキキホテルとパシフィックビーチホテルで毎日無料のレッスンが行われていました。短期の旅行者は数日で顔ぶれが変わりましたが、長期滞在者は毎日のように練習に参加していましたのですっかり仲良くなりました。常連の米国サウスダコタのW夫妻、東京のK夫妻、M夫妻、広島のSさんらとは来年の再会とウクレレの上達を誓いあいました。アメリカ人のW夫妻には皆で日本語を教えました、とくに奥さんが熱心で必ずメモをとり翌日その日本語を使っていました。ただ大阪弁や広島弁などが混ざり合った日本語で心配でしたが。ご主人とは1938年生まれと同じ年でヒッチコック監督の映画「北北西に進路を取れ」で巨大彫刻のあるラッシュモア山の話をしたら大変喜んでいました。この山が彼らの住むサウスダコ





タ州にあるからです。冬の4ヶ月間を6年連続でハワイで過しているそうで、友達がうらやましく思っているだろうと聞くと「They hate us」と冗談を言っていました。

カピオラニ公園からダイヤモンドヘッドを背にしてワイキキビーチの波打ち際を西方にヒルトンホテルあたりまで1時間くらいよく散歩をしました。ひんやりし海水と細かな粒子の砂で足の皮膚が滑らかになりました。ヒルトンホテルの浜沿いにある遊歩道のベンチで毎朝ウクレレ弾きながらハワイアンなどを歌っている80歳近い男性がいました。素晴らしいバスの低音が響きウクレレも見事な腕前でした。キューバ生まれのR氏で若い頃はオペラ歌手だったそうで、彼が出演したオペラのシーンが沢山入っているiPodを見せてくれました。始めて3年ばかりでこんなにウクレレが上達する秘訣を聞きましたら、にやりと笑って「Practice, Practice」と言いました。手書きの歌詞とウクレレのコードを記入した小型の手帳を見せてくれました。それから独学の自分の先生はロイ・サクマのDVDだと教えてくれました。早速帰りに書店によってこのDVDを買い求めました。

それから毎朝会うようになりましたが、挨拶を交わしたり立ち止まって歌を聞く人が大勢いました。その中にいたカリフォルニアのモンレーから来た日本人と韓国女性の夫妻と言葉を交わしました。ヒルトンホテルの東側にある米軍人専用のハレコアホテルに滞在しているそうで部屋を見に来いと案内してくれました。ワイキキの浜辺と水平線まで広がる太平洋の眺望

がすばらしい12階の部屋のベランダにはマンゴやパパイヤなどが沢山置いてありました。安いものがあつたので沢山買ってきたと達者な日本語で奥さんが説明してくれました。館内のレストランやショップはIDカードが無いと利用できないが、1階のコーヒーショップは誰でも利用できると教えてくれました。それからはビーチの散歩の最後にここでゆったりとコーヒーを楽しむようになりました。

ワイキキショッピングプラザのヨガのレッスンも受けました。日本人の女性インストラクターが英語と日本語の二ヶ国語で1時間みっちり身体を動かすという少しハードな運動でしたが、周りのアメリカ人から少し手を抜いたらいいよとのアドバイスをうけ、広島のY夫妻と岡山のS夫妻と帰国直前まで一緒に続けました。

今回、絵の画材を沢山持参しましたが、残念ながら一枚も描けませんでした。帰国直前の土曜日、カメラクラブの作品展用にハワイの花を写真に撮ろうとバスで1時間ほどのフォスター植物園に行きました。植物園の中で油絵を制作していた20人くらいのグループにいた東洋人の若い女性に話を聞きました。彼女は韓国人でハワイ大学の大学院生でした。このグループは毎週土曜日にオアフ島のいろんな場所で油彩の風景画を描いているそうです。その日はあいにく先生が旅行中で詳しい話が聞けませんでした。次回のロングステイの機会に入会したいと思っています。

家内・美智子のロングステイの日々について少し触れておきます。グランドゴルフとウクレレ



レは私と一緒にやりましたが、家内一人ではフラダンス、太極拳、英会話などのレッスンを受けていました。それからマキキ教会でのボランティア活動に毎週参加して日米のボランティアの相違点を体験したそうです。

4. 生活の足と食・住

オアフ島の唯一の公共交通機関は市バスで「The Bus」と呼ばれ全島86路線、停留所は4000あるそうです。バス料金は一回乗車毎に2.25ドルで去年の2ドルから値上げしていました。バスには両替機はありませんので5ドル札や10ドル札を出してもお釣りはくれません。ワイキキのように1~2ブロックごとにバス停がある短い距離でも長距離を何時間乗っても料金は同じ2.25ドルです。旅行者に便利なバス・パスには4日間乗り放題のものや1ヶ月有効のパスがあります。しかし65歳以上のシニアにはもっと有利なパスがあります。ワイキキから1時間ほどバスに乗ってバスオフィスに行くと顔写真を撮ってくれて4年間有効のシニアパスを作ってくれます。外国人はパスポートなどのIDの提示が求められます。所要時間は10分足らずで費用は10ドルです。このシニアパスに月毎のStickerを貼り付ければ1ヶ月間バスは乗り放題です。このStickerは市役所のサテライトオフィスで1か月分が5ドルで購入できます。40日間の滞在中に一日平均して6~7回はバスに乗っていましたから利用料金500ドルに対してSticker代金は2ヵ月分10ドルで済んだことになりました。

食事は日本での暮らしと同じでコンドミニアムの自室での食事が殆どでした。調理用の什器、炊飯器、電子レンジ、オーブンやトースターなどは一通り揃ったいわゆるフルキッチンでしたので切れの悪い包丁以外はあまり不自由はしませんでした。食材はバスで20~30分かかるドンキホーテという大型スーパーに度々行きま

した。日本の食材も割高でしたがなんでも有りました。寿司や刺身なども豊富にあります。ワイキキ地区で唯一の食品スーパー Food Pantryは近距離にあり値段はやや高めですが殆どの食材とアルコール類などがそろっています。ワイキキバニアの隣にあるワイキキコミュニティセンターのファーマーズマーケット(朝市)が毎週火曜日と金曜日の午前7時から昼ごろまでオープンし新鮮な野菜や果物が売られていてよく利用しました。ここ以外にもダイヤモンドヘッドの麓にあるカピオラニ大学(KCC)の駐車場、カピオラニ公園やダウントウン(チャイナタウン)でも朝市が開かれていてこまめに歩くとスーパーよりもかなり割安の野菜や果物が手に入るそうです。今回のロングステイはコンドミニアムの手配が遅かったため40日の滞在中に3回部屋を移動するという落ち着かないことになりましたが、違ったコンドミニアムで経験が出来て良かったと思っています。部屋のタイプはいずれもOne Bed Roomでしたが2人が滞在するには十分な広さでした。



5. ハワイでお目にかかった南の会の皆さんへ

ハワイ支部長の大黒様、横浜の中牟田ご夫妻、岡山の湯浅ご夫妻、ペナン支部の松下ご夫妻の皆様とご一緒でき大変楽しく充実した日々を送ることが出来ました。この紙面を借りしまして改めて御礼申し上げます。有難うございました。

中南米の旅① (ロスアンゼルス経由)

コスタリカ→エクアドル (編)

関東甲信越支部 No.40 平澤 信

VISA と旅日程

'05. (平成17年) 12.15 (水) ~ '06.3.14 (月) の3か月間。

訪問国は、東京(成田) →①アメリカ(ロスアンゼルス通算7日間) →②コスタリカ(サン・ホセ他13日間) →③エクアドル(キト他9日間) →④ペルー(リマ他22日間) →⑤ボリビア(ラパス他6日間) →⑥チリ(サンチャゴ他14日間) →⑦アルゼンチン(ブエノスアイレス他16日間) →⑧ブラジル(イグアスホール他3日間)

・成田→ロスアンゼルス(USA) 往復。3か月FIX 航空運賃66,000円。シンガポール航空使用。

VISAは各国とも3か月以内は不要。

ただし、ブラジルだけは要VISA(ブラジル到着後でも、近隣諸国でも取得できる)。

今回は、旅の醍醐味に加えて、旅友達や回りの人達との人間関係にも焦点を当ててみた。

ロスアンゼルス経由

(渋ちんおじさんと共にサンタモニカ滞在)

'05年12月15日(水) 成田を発って十数時間のフライトでロスアンゼルス空港に到着。

中南米は治安が悪いと言われていたことから「途中まで一緒に旅をしたい」と言う神戸の友人、Yさんからの強い要望で、今回の旅は、関空からYさんと彼女の友人M氏とロスアンゼルス空港で落ち合う事になった。

旅先で、どこへ行くかは各自自由だけれども「移動の際は、できるだけ3人で行動しよう」と言う約束をした。

ところが、ロスアンゼルス空港に着いてみるとYさんの姿はなく、見知らぬ男性が「平澤様」と書いた紙切れを持って待っていた。

「Yさんは何処ですか？」の間に彼M氏は、苦

笑しながら「彼女はパスポートを忘れたため、2日後成田からの便でロスに向かう」と信じられない事を言う。海外旅行歴30余年。訪問国は100か国に近く、出掛けた回数も、70~80回と経験に何の不足もないYさんが、こんな初歩的なミスをするなんて、アルツハイマー病にでも掛かったかと、良からぬ心配をしてしまった。一体何が原因だったのか今もって分からない。

硬い性格のYさんはその後も、旅先でどうでも良い事を意固地なまでに自己主張し、数時間後には自分の言った事をすっかり忘れてしまったり、割勘のはずの金額を頻繁に計算違いした。この計算違いは、何故か私の支払い分をいつも多く間違えるため、いちいち間違いを指摘するのは、彼女から借金するような気まずさが残る。中でも酷かったのは、バス代7\$ (742円)のところを16\$ (1,696円)と正規のバス代よりも多い金額を請求した時だ。間違いを指摘すると「シマツタばれたか？」と言って頭を掻く真似をしたが、直ぐには返さず、真顔で、「いくら返せばいいの？」と開き直る。まさか本気ではなく、単に勘違いだったと思いたいが、こんなトラブルが向こう3か月続くと思うと、一緒に旅することが苦痛に思えて気が滅入った。

マア、そんな訳で、Yさんの友人M氏と私は、見知らぬ者同士が相談の結果、サンタモニカのホテルでYさんの到着を待ということになった。M氏も旅なれているらしく、テキパキとサンタモニカ行きの車の手配などしてくれた。

目的のホテルは、海へ歩いて3分のベニス・ビーチホテル。アメリカだから、アジアと比べればある程度ホテル代が高むのは仕方がないと私は承知していた。

交渉の結果、セミダブル1泊60\$ (6,360円)を50\$ (5,300円)に値引きしてくれた。私は良心的に思えたのだが、M氏は「こんな高いホ

テルは自分には向かない。だから、Yさん到着まで待たずに、ベニス・ビーチには1泊するだけで、僕はコスタリカに1人で先に行く」と言う。

そして部屋も若者達に混じってドミートリ（4人の相部屋）に入った。部屋代20\$（2,120円）を18\$（1,908円）に値切ったと自慢していた。

とに角お金にはシビアで猛烈にこだわる御仁だった。食事に行って、何を食べるかではなく「店で一番安いもの」を頼むのだと言う。だから彼の昼ご飯は「春巻風の揚げ物2本だけ」と言う具合だ。こんな旅をして何が楽しいのか分からない。何を見ても「アラマ〜高い!」には笑うしかなかった。私も貧乏で、お金には縁がない方だが、こんな発想は初めてだ。でも、ポッチャリと色白のM氏が言うとは何かユーモラスだった。

彼ほど渋い人とは短期間でも一緒はとても無理だと思った。

だから彼が「先にコスタリカに行く」と言ってくれた時は内心ホッとした。

徹底的に渋チンなのかと思えば、午前11時までにビール3本とワイン1本を開けたと、自分自身には酒の大盤振舞いをしている。

朝から酒気を帯び、赤鬼のような顔でサンタモニカ海岸を散歩している彼を見掛けたが、声を掛けそびれた。

沢山酒を飲むとお腹は空かないものらしい。

つれづれなるままに、彼は自分の人生を語ってくれた。

彼の半生をかいつまんで話せば48歳までNTTの社員であったが、民営化の時点でリストラされ、その後、仕事に恵まれず苦しい人生であったとのこと。

従って、今受け取っている年金の月額額は12万円だと言う。遠い昔に妻子とも別れ、60歳からはチエンマイで1人暮らしている。「チエンマイならば5万円で生活できるが、自分は大酒のみなので7万円ほど生活費が掛かる」でも、「毎月5万円づつ貯金ができるからこうして遠い南米へ旅行もでき、人生をエンジョイしている」ということであった。

意外な所で意外な長期滞在の体験を聞くこと

ができた。

M氏の場合、人生をエンジョイしていると言っているから、他人が口を差し挟むことではないが「定年後うまく方向転換できて良かった」とも思えるし「ほろ苦い人生の末路」と言えなくもない。がこの判断は難しい。

2日後、ロスアンゼルスに到着したYさんに、貴方の友人M氏の“おもり”は結構大変だったと訴えたら「彼とはチエンマイに滞在中1度ビールを共に飲んだ事があるだけ」で、意気投合した訳でも好感を持った訳でもないと言う。そう言う男性と3か月もの長旅を共にする気になったYさんに私は驚くばかりだ。

アメリカ西海岸は初めてだが、東海岸側（ニューヨークなど）等とは全く雰囲気が違う。

アメリカ有数のリゾート地と言われているサンタモニカ海岸だが、時期が冬だった事もあり、美しい白浜と広い海があるだけ。日中の気温は27℃程にはなるので、泳いでいる若者もいたが風が強く、高齢者の遊泳は無理だった。

ただし、毎夕のサンセットだけは陶然とする美しさだ。

ベニス・ビーチから市の中心まで歩いてみたが、季節柄か、そぞろ歩きしたくなる道も、住んでみたいようなシックな家もなく、華やかさの感じられない殺風景な街に思えた。ハリウッド辺りまで足を伸ばせば印象は違ったと思うが、乗り継ぎの為の数日間を利用した滞在のため、今回は時差の調整に専念した。日本との時差は18時間。

因みに、Yさんとは2日遅れで合流できた。文明の利器インターネットに感謝あるのみ。

コスタリカのマヌエル・アントニオへ

12月19日（日）ロスアンゼルス空港よりコスタリカのサン・ホセへ。約7時間の旅。

片道航空運賃56,200円ビジネス使用（通常の運賃は18,000円程度）。

クリスマス休暇前で、出稼ぎ労働者が中南米へ帰郷のための大移動があるため、エコノミーは満席で、ビジネス・クラス購入を余儀なくされた。清貧の私には痛い出費だ。

コスタリカの首都サン・ホセのホテルに大荷物を預けて、国内を旅する予定であったが、前述の「アラマー高い！おじさん」のM氏からの度重なるお誘いメールで、その日のうちにコスタリカのサン・ホセ空港からマヌエル・アントニオまで移動する事となった。サン・ホセから更にバスで、3時間30分。

私は、日本出発の2日前まで「腸炎」で、ろくな物も食べられず入院していたため、体調不良のまま出発せざるを得なかった。だから体力がなく、マヌエル・アントニオにたどり着いた時には異常なまでの疲労感に襲われた。到着の夜、ホテルで12時間眠ったがまだ眠気が取れない。

私の旅スタイルは「気ままにゆったりと無理しない」を信条としている事から、このお2人の高齢者とも思えない体力の持ち主達との同行は無理だと思い始めた。しかし、M氏もYさんも「旅友がいるっていいねー」と楽しそうにしているところを見ると「1人にして欲しい」とは切り出しにくい。朝から晩まで一緒に喋ってはいるのだが、旅スタイルに共通性もなく、話が「〇〇が安い」事にばかり集中して、心通い合うものが何もない。楽しみにしていた今回の中南米の旅を他人のペースに振り回されるほどもったいない事はない。

だから、いつ、この人達との別行動を切り出そうかとその事ばかり考えていた。

そんなイライラを差し引いてもなお、マヌエル・アントニオは匂うような緑の大自然と海を持つ美しいリゾート地だ。西洋人達は、お弁当持参で、1日中入り江になった海辺で子供を遊ばせくつろいでいる。風もなく温暖で、気温28℃～34℃。夜はACが無いと湿度が高いため暑く感じる。

私達は、夕陽を浴びて遠浅の海で思う存分海水浴を楽しんだ。この日、夕食にレストランでステーキを食べた。3,740 コロン (870 円)。味は悪くないが、この地にあってこの値段はかなりの高額。

因みに朝食は、パン、卵、ベーコン、フルーツ、で1,500 コロン (350 円)。昼食は少し高級レストランのスパゲッティ 4,000 コロン (930 円)。



この程度の食事内容と金額で、日本でも食べられることを思えば、物価高と言う他はない。ホテル代も、ツイン1泊60\$ (6,360円)とロスアンゼルスより高かった。

中米にいると言う感覚ではなく、高温多湿で、咲いている花も樹木も東南アジアと似ていてフツとアジアにいる錯覚に陥る。

自然の他は何も無いけれども、のどかで空気が綺麗で、美しい所だと思う。

しかし、忙しい性格の私は、日がな1日、来る日も来る日も自然林と海だけを見て過ごせるだろうか？そして、遠い日本からわざわざ長期滞在するにはマヌエル・アントニオは少し魅力に欠ける気がした。

油断召さるな！ 小僧の客引き…。

12月22日(水) マヌエル・アントニオから一旦サン・ホセに戻り、3日間、毎日10時間以上眠って体力増強に努めた。

25日(土) 向かった先は、コスタリカでも有数の観光地と言われている「アレナル火山」へ行くため、フォルトウーナと言う街へバスで向かった。バス代1,380 コロン (320 円)。4時間

30分の旅。

フォルトウーナの街は、特記すべきことが何もないのだが、想像以上にホテルもレストランも多いのは、観光地へ行くためのベースキャンプのような街で、絶えず多くの観光客で賑っていた。

今日泊まるホテルは、中級のラ・コリナ 35 \$ (3,850) と私は決めていたのだが、バスが到着すると大勢の客引きが待ち構えていて、宿のPRをする。

気温が高く蒸し暑いので、早くホテルで休みたかったのだが、Yさんは遊び心からか、13～14歳と思しき少年の客引きの部屋を見ようと言い出した。部屋代 10 \$ (1,060円) AC、ホット・シャワー、朝食付きと書いた紙を持っている。

この少年は、端正な顔立ちをしているが、油断ならない目をしている。Yさんは「この子は賢そうな顔をしているし、第1安い！」と言う。行って見ると、ご多分に漏れず、こ汚い。私は当初目的にしていたラ・コリナHに戻りたかったが、Yさんは「室が清潔だとは書いてないから彼は嘘を言っていない。安いが一番！」で、ここが良いと言う。私は又もイライラが募る。Yさんは、男の子を気に入ったらしく、さかんに「賢いねー」を連発している。小僧も調子に乗って「皆にそう言われる」と鼻をピクつかせている。

私は用心深い性格なので、小僧の客引きになど絶対についていけない。彼は自称 17歳というが、どう見ても 13・14歳にしか見えない。

この小僧、私達程度のつたない英語力で宿の他に「アレナル火山ツアー」の紹介を始めた。ホテル代、食事代は含まず3日間のツアー代 115 \$ (12,190円) だと言う。Yさんは、私に同意を求めた。私は「街の旅行会社で確認してから返事で良いのでは…」と言うと、ムツとした不機嫌な顔で「お好きにどうぞ！」と言った。彼女も相当イライラしている事が分かる。同行者との意見調整は結構難しい。

後刻、街の旅行会社で確認をして驚いた。全く同じツアーの代金が 85 \$ (9,010円) であった。

1人 30 \$ (3,180円) も高い。2人で 60ドル (6,360円) ものお金を誤魔化される所であった。コスタリカでは大変な金額だ！

私は小僧を睨みつけて叱ると「冗談！ 冗談。もちろん値引きするつもりだった」と言う。懲らしめのために、「私達を騙そうなんて 20年早いぞ！ 日本人も結構頭がいいのよ！ 商売は正統派で行かないと君に明るい未来は無い。」と言うと「アイ・ノウ、アイ・ノウ (分かっている)」とヘラヘラ笑いながら言う。

懐マナーが泡と消えた小僧は、途端に不機嫌になり、乱暴な振舞いになった。

普通の常識からすれば嘘がばれて恐縮するはずだが、逆に不機嫌になるとは、お国柄の違いで片付けられない、人としての基本が出来ていない気がする。勿論、私達は笑いながら付合っていたが…。

気弱で面倒臭がり屋の日本人なら、まんまと騙されることころであった。おのおの方、油断召さるな！ 中南米は子供でも大人を騙す術を心得ていますぞ。

安いが一番と言ったYさんは、小僧の件、自分が悪乗りした事をすっかり忘れて、今度は何時までも小僧の悪態をついている。騙す方は悪いに決まっているが、こんなに簡単に騙される方も悪い。旅上手とは言えない。やっぱり彼女はアルツハイマー病か？ 私に対して、ご免も言わずにろくでなしだ。

アレナル火山で温泉を楽しむ

26日(日) この国で一番楽しみにしていた観光地、アレナル火山へバスで向かう。

アレナル火山は、昼間は富士山に似た美しい山くらいの景色であったが、夜になると、漆黒の夜空に真紅の溶岩を絶え間なく吹き上げている活火山であった。火山を見ながら様々な国の人達と、文字通り裸の付き合いだ。勿論、全員水着を着用した上での混浴。

温度と深さの違う巨大な7つの温泉プールは大いに楽しめた。

温泉の周りは深い竹林で、夜になると歩道には淡い光のランタンを置くなど、日本への郷

愁を感じる夜景なのだが、温泉に対する観念が日本と違うため、脱衣場やシャワールームが少ないうえ、不潔な事が残念であった。

それにしてもこの夜景、大昔の人達が“神の怒り”と信じて恐れおののくに十分な迫力だった。旅は本当に奥が深い。

カーニョネグロ野性保護区とモンテベルデ（自然保護区）ツアー

27日（月）～29日（水）本日の日程は、緑のヤシの木が生い茂る熱帯雨林の中を、7～8人ずつボートに分乗してフリオ川を上って行くのだが、動植物に詳しい人達の目は輝き「○○の木だ！」「○○サルが…」と叫び、ボートからはみ出ではしゃいでいる。いちいち感動している暇がないほど、色鮮やかな鳥、ワニ、ヘビウ、世界で一番美しいトカゲと言われているグリーンバシリスク（鮮やかな緑色）に出会ったが、爬虫類を少し苦手な私には単に気味悪い存在であった。

だが、葉切りアリの行列だけは、休むことなく働くサラリーマンの日常を見るようで、何度見ても笑ってしまう。動植物の知識に乏しい私にはこの大自然ツアーも「猫に小判」と言う表現が適当であった。

しかし、肺の中がすっかり浄化されたらしく、地病の喉の痛みもなく快適に過ごせた。こんな気味悪さをも秘めた大自然が残っているのはコスタリカを置いて他に無いと思う。

モンテベルデは1年中かなり強い風が吹いているのが特徴らしい。小型台風のような毎日に私はかなり疲れた。景色は良いのだが、ここに住むには少し歳を取り過ぎたと思う。

自然保護区では、日本人旅行者に1人も会わなかったが、この日のツアーに日本の商社マン親子と一緒にあった。ここでの日常生活や苦労話を伺ううち「商社マンは給料を貰いながら各国を旅行できるから羨ましい」と思っていた私の考えは少し変わった。殆ど日本人もいないこの地で商売をする事の大変さ、孤独感は計り知れないものがある。この人達の地道な努力こそ、今日の日本の繁栄をもたらしたに違いない。

帰国後、商社マン一家とは是非楽しい話の続きをと誓い合ったのだが、今だ実現していない。その時は大いに意気投合したのだが、再度日本でお目に掛かるのは野暮なことなのかも知れない。

帰りのバスの盗難事件

12月30日（木）モンテベルデから再び首都サン・ホセへ。

Yさんは、ここが気に入って、もう一晩ここに泊まる予定なので、私は次の訪問地エクアドルへ向けて旅の準備をするためサン・ホセへ1日早く帰ることにしていた。何よりも1人になりたいと言う個人的事情もあった。朝食後自室で帰り支度をしていると、Yさんが私の部屋に来て、自分も一緒にサン・ホセに帰ると言う。「私に構わず美しい自然を堪能するように…」とさり気なく勧めたが、彼女の帰る意志は硬く変更される事はなかった。

かくして、またもやこの後もYさんと一緒に旅をすることとなった。

私は長距離移動の際、乗物の遅れ等を見越して必ず1食分の食料を持参する。Yさんにも勧めたのだが、彼女は「行った先の物を食べるのが旅の醍醐味…」と言って何も食べ物を持たずにバスに乗った。

バスは時折休憩時間を取ってくれるため、お昼の食事は問題なかったが、途中未舗装道路が多く、悪路だったためバスは大幅に遅れ5時30分にサン・ホセ到着予定が8時30分の到着となった。終点のコカコーラ・バスターミナルに着いた時、Yさんは「荷物が無い！取られた！」と大騒ぎしている。バスの運転手は「またか？」と言っただけで、不注意者には全く取り合ってくれない。

Yさんは「隣の席の英語を話す白人に荷物を取られた」と言う。盗んだ人を特定できるなら、何故その場で取り返さなかったのか？

私は、「狙われる日本人」と言う戸田智弘さんの著書（南の会会員）を読んでいたので、バスの座席の下に荷物を入れて、常に足で確認していた。Yさんにもその事を勧めたのだが、「網棚があれば普通網棚に乗せるでしょう？」と口

返答したうえ、自分の不注意を棚に上げて「コスタリカでこれだから、この後の南米が思いやられる。貴方も充分注意するように…」と笑止千万な事を言う。

従って、その日ホテルに着いたのは9時を廻ってしまった。こんな時間に街での夕食は危険。結局、夕食は私の持っていたサンドウィッチと、ツナ缶、果物類を2人で食べた。

Yさんは、私にお礼を言うどころか「到着日のディナーにしてはご粗末…」と癪に障ることを言う。だが、この無礼さをたしなめる気も起こらないほど一緒にいることが苦痛になってきた。

事故を起す人を見ていると、企画力と綿密さに欠けるうえ、勘が悪くガサツな気がする。避けられない事故は誰にでもあると思うが、Yさんの場合、自ら事故を呼び込んでいる気がしてならない。彼女は、「旅人が出会ったという殆んどの事故に遭遇している」と、何の反省の色もなく自慢気に言っていた。実際事故慣れしていて必要書類が何かなど良く知っていた。本当に懲りない御仁だ。

首都サン・ホセ（この下痢は…。）

ホテルでゆっくりと次の旅支度をするつもりであったが、Yさんの紛失荷物の保険や航空チケット、T/C、デジカメと朝から警察への事故届けのためにフロントをも巻き込んで一日中バタバタと落ち着かない。

一度トラブルを起すと本人だけでなく、回りの人にも多大な迷惑が掛かる。全く彼女の不注意であった事を思えば、気の毒ではあるが腹立たしくもある。これでは、何のために1日早く帰ったか分からない。

でも、彼女の次の訪問国はペルーで、私はエクアドルなので、これで完璧に別行動になれる、とひたすらの我慢である。

サン・ホセの長距離バスターミナル辺りの夜は、かなり危険地帯と言われているが、日中は特に危険を感じる事もないし、市の中心部は清潔で西洋っぽい街並であった。

言葉は、スペイン領であったことから、街中ではスペイン語が話されているが、公共施設や

ホテルでは英語が話されていて、旅人が不自由を感じることはなかった。

この街で超驚いた事は、ここに47年も住み、商売（食堂）をしている日本人がいたことだ。

彼は70歳を過ぎていて、台湾人の奥さんと大学生の息子の3人暮らし。すっかり日本語を忘れ、私達との日常会話もおぼつかない。

私達と話すときは大学生の息子さんが、英語で通訳してくれる。

彼の店に私達が行くと必ず顔を出して、他の人には決してしないでであろう食べ物の何品かをサービスしてくれる。

けれども、彼の作る料理は、もはや日本の味ではなく、食材も味付けも中米の物であった。彼は、日本人ではあるけれども、幼くして台湾で育ったため、日本での本籍地も分からないと言う。でも、やはり日本人を懐かしく思うご先祖様からの血が騒ぐのか、いつもニコニコして私達の傍にいてくれる。日本人がエビ料理を好む事を良く知っていて、エビの唐揚げのような物と果物などを毎回サービスしてくれた。

だが、彼の店で食事をすると、その後必ず私のお腹はゴロゴロして腹痛と下痢になった。最初は偶然だと思ったが、度重なる現象に、この店の料理あるいは使用している油に問題があることに気がついた。しかし、時すでに遅く10分ごとのトイレ通いに悩まされた。

同行のYさんは同じ者を食べても何の異常もなく元気そのもの。呪わしいほど弱い私の内臓だが、短期の滞在だったため大事に至らなかったことがせめてもの幸いであった。

さてさて、下痢ともYさんとも別れて1人エクアドルへ、そこからアマゾン上流への旅は、考えただけでもワクワク、顔のほころびを隠し切れない。筈であったが、何とYさんもエクアドルへ行くと言うではないか。

「ペルーへ行くんじゃないの？それに貴方はガイドブックも持っていないでしょう？」と詰問調になっている私に、彼女は意地悪い眼でニッと笑い「貴方の方を見せて貰うからいいわ」だと！

ああー、アマゾン行きの話など夢々Yさんに

するのではなかった。その時は目の前が灰色になってしまった。

南米エクアドル

一目惚れした美しい街キト（首都）

1月1日（土）コスタリカ（サン・ホセ）発 10:50。エクアドル（キト）着 12:50。フライト時間2時間。片道航空券代425・50 US \$（45,103円）。又々清貧の私から高い航空運賃が出て行った。

飛行機がエクアドルの上空に差し掛かった時、目にした景色は今も目に焼き付いている。

山の頂上までも続く白い建物と赤茶色の屋根。国自体は決して豊かではないと案内書には書いてあるが、着陸前から、このござっぱりとしたキトの風景に好感が持てた。何故だろう？こう言う気持ちを「一目惚れ」と言うのだろうか。上手く表現出来ないが、理屈ではなく心がはやる。何事にも無感動なYさんでさえ盛んに「いいねー！」を連発している。

キトの街へ入ってそれは更に現実となった。

この国は赤道直下にあり、緯度はマレーシアと同じで暑いはずだが、ここは標高 3800 m と高いため、最低気温 15℃、最高気温 27℃と、「永遠の春」と言われ、文句言いやうのない快適さだ。東南アジアの樹木の緑は、暑さのためかドス黒く、緑色に疲れを感じるが、ここエクアドルの緑は新鮮な緑だ。

ホテルはガイドブックで予め決めておいた新市街の目抜き通りにあるロロ・バードへ直行。シングル 9 \$（954円）。ツインも 18 \$（1,908円）で泊まれるのだが、シングルも決して悪い部屋ではなかったので、シングルに決めた。

夜、雨が降ると気温が 20℃ くらいに下がる時もあり、寒がりの私は室に暖房を、暑がりのYさんは冷房を入れた。

街の様子は、ヨーロッパ風。特に旧市街は強い地名を特定すればスペインのアンダルシア地方の感じがする。

新市街は、樹木が多く清潔で、広い歩道のあちこちに長椅子が置かれ、午後になると三々五々人々がそこに集まりお茶を飲み談笑している。

この国が日本よりも遥かに貧しい国とはどうしても思えない。

旧市街へ行くため、トロリーバスを良く利用した。殆ど日本人のいないこの街で、インデオの人達を見かけた時は、懐かしいような、嬉しいような、親しみを覚えた。

女性は年齢に関係なく、女学生のように黒い髪をみつ編みにして、山高帽を被り、子供も荷物も、何でも入る大きな風呂敷包みを背負っていた。

彼らも日本人を同朋と感じるらしく、私達に笑顔で話し掛けたり、バスで席を譲ってくれたり、飴玉を分けてくれるなど、スペイン系の白人達には決してしないであろう親切心を私達には惜しげも無く示してくれた。

食べ物は、一般的に西洋食風の物が中心だが、メニューが豊富なため日本食を食べたいと思うことは無かった。

特にお気に入り、「エンセボリヤード」と言う具沢山のスープだ。鶏ガラと魚で出汁を取り、10種類ほどの野菜、肉、魚類を好みにチョイスして、大鍋から前述のアツアツの出汁をたっぷりかけて食べる。酢ダチや香草もあって、私は1日3食べていたくらい気に入った。しかも 1.25US \$（133円）ブラボー！と叫びたいくらい安い値段だ。



アマゾン上流へ

1月4日（火）エクアドルのキトよりアマゾンのコカへ。2泊3日のアマゾンへの旅。航空券往復 120 \$（12,720円）。他に、観光・宿泊費・1日3食の食事代を含むツアー代 140 \$（14,840円）。

アマゾン上流へ旅をしたいがために来た未知のエクアドルであったが、すっかりこの国の虜になってしまった。

日本からアマゾンへの旅は、一般的にブラジルのマナウスからが王道と言われている。他にも、コロンビア、ペルー、ボリビア辺りからバスで行く方法もあると聞くが、なるべく観光客が少なくアマゾンらしい風景を、との思いから高齢者の私はこのコースを選んだ。

フライト時間30分。河口にあるツアー・オフィスで、ゴム長靴を借りて、スピード・ボートで2時間近く走ると周りの景色は熱帯雨林に一変する。アマゾン上流と言うから川幅は狭いと思っていたが、アフリカのヴィクトリアの滝へ流れるザンベジ川よりも、ベトナムのメコン川よりも大河であった。大河の支流に入っていくと、密林の中に、原住民の住まいを真似た30戸ほどの観光客用ロッジが、ひとつの集落のように並んでいる。きれいに整理された広い庭には、花壇も作られ、野生のサルや大蛇も捕獲されていて旅情をそそられる。

ロッジの四方の窓を開けると、むせ返るような緑が全身を包む。各室のバルコニーには、ハンモックが吊り下げられていて、昼寝をしたり、ガイドブックを読んだり大いに活用した。心配していた蚊やブヨその他の虫は見かけなかった。夜は真っ白な蚊帳を吊ってくれるので、蚊取り線香も不要であった。

こんな密林でヘビでも食べさせられるのではと、ビクついてレストランに行ってみると、マァー驚き！3食ともシェフ自慢の上等の料理が出された。船で遙々街から運んできた食材であろうか。特に、ディナーはフランス料理のフルコースだった。お味のよろしいこと！それに滞在中一度たりとも同じ食事が出される事は無く、このツアーは大当たり。

密林に住むインデオの生活

1月5日(水)は熱帯雨林散策のため、5時30分起床。6時30分朝食。7時30分出発。

この日のメンバーは、イタリア人2人、アメリカ人3人、オーストラリア人1人、そして日

本人2人の8人。さすがは熱帯雨林、気温30℃、湿度90%で、風呂場の中に着衣で入っているような感じだ。

密林を少し入ったところで、ここに自然生息していると言う「カピバラ」と言う動物にであった。大きな羊くらいで、真っ黒い体毛をまとった猪のような豚のような、大きなネズミのような…。始めて見る動物であった。

カピバラは、人懐こいのか黙々と1時間も私達に着いて来る。誰も見ていないところで「向こうへ行け」とお尻を押したところをガイドに見つかってしまった。「絶対に人間に危害を加えない動物だから…」とガイドから注意された。私は、大自然と言う物がかかなり苦手に思えてきた。

湿度90%の中で、肥満のアメリカ人達は衣類の上からも汗が滴るほどの大汗をかき、一番先にバテていた。肥満大敵である。

昼食後、ナポ河の辺に住むインデオの部落を訪問した。全く人気の無いジャングルの中に、1軒、また1軒と原住民達は暮らしていた。1軒目は、初老の夫婦が住む高床式住宅。家の中は電気も無く、水はドラム缶に溜めた雨水を飲むと言う耐乏生活。食べ物は自給自足で、私達が行った時「焼きバナナ」と粟だかヒエで造った自然発酵の「酒」を造っていた。妻は糸を紡ぎ、夫はルーア(魚釣りの道具)を作っていた。ナポ河で釣った魚も食べると言っていたが、2人共とても痩せていたのは、多分栄養失調なのだと思う。

2軒目は、両親が釣りに出かけて子供3人が留守番している家だった。やはり高床式だが、生活の様子は、どう見ても貧しさ極まるの感がある。家の中に食べ物は見当たらないが、鍋だけが眩いばかりにピカピカに磨かれていたのが印象的だ。5歳8歳12歳子供達は勿論学校にも行っていない。素足で身体も、シャツもかなり汚れていた。

同行のオーストラリア人の若い白人女性が、持参したお菓子と文房具を子供達に差し出した。5歳の子は直に手を出したが、12歳の子に笑顔は無く少し不快そうな複雑な表情を見せた。8歳児はお兄さんの顔を見て無表情に受け取った。

12歳ともなれば自尊心が芽生えて、自分達がどういう暮らしをしているのか、多分、判っていたに違いない。「恵んでやる」的な施しに対し、不快に感じたのだと思う。こんな所に来る事を観光と言えるのだろうか？日本人と同じ顔をしている彼らを見ると他人事とは思えない。

エクアドル政府は、こう言う人々の暮らしに何の援助もしないのであるだろうか？

豪雨の中のピラニア釣り

1月6日（木）この日は、ナポ河支流にピラニア釣りに出かけた。真っ暗な空からバケツの底が抜けてしまったような水が落ちてくる。熱帯の雨とはこんなに凄いものかと恐れおののいた。釣りは中止かと思ったのだが、ガイド達は「雨に驚いていたなら何もできない！さー行きましょう！」と号令を掛ける。日本から持参したフード付き雨合羽を着ていたのだが、まったく用をなさず5分間で体の芯までずぶ濡れになった。アジアで体験したスコールの何倍も凄い。水を背負っているようで背中が重い。気温25℃で、それ程低くはないのだが、水の中に入っている状態で体温をどんどん取られて寒くなった。4人ずつ分乗した小船には水がたまり転覆寸前。かなり大きなヘビが船と平行して泳ぐ様子は、自然を満喫するよりも身の毛がよだつ体験だった。船から落ちたら蛇とピラニアに喰われる！？恐ろしさから、船に溜まった水をかき出す事が先で、釣りどころの騒ぎではなくなった。私は1時間30分ほどでギブアップ。1匹の魚も釣れなかった。ガイド達とドイツ人、アメリカ人達は雨にも負けず釣りをしている。

こんな時、肥満体は寒さを感じないようだ。

結局この日の獲物は、現地ガイドのゴンザロ君が釣上げた中型のピラニア2匹だけだった。同じ釣竿なのに彼だけが釣上げたのは、さすがという他はない。

午後になると、午前中の雨が嘘のように快晴になった。ロッジに帰って着替えの後、湿度計を見たら湿度100%であった。どんなに陽射しが厳しくとも洗濯物は帰るまでの2日間、洗ったままの状態であったため、重い洗濯物を抱え

て帰路に着いた。

彼の名は「江戸悪奴？」

今回のガイドは2人。1人はスペイン系白人のエドワルド君（37歳）と密林の案内役は、インデオの青年でゴンザロ君（26歳）。

しかし、2人の待遇はかなり違う。白人のエドワルド君は私達と同等の客室に泊まり、食事も客と一緒にのに、ゴンザロ君の部屋は少し離れた従業員用の大部屋で食事も別。この違いは何だろう？

2人共この危険地帯で私達を良く守ってくれたと思う。エドワルドにこの事を聞いてみたら、「インデオは仕事があるだけで有難いのだ」との返事が返ってきた。これがここのシステムなのだと思うが、訳もなくなく腹立たしい。（当然給与に差があるはずだから）

だから密林散策時の休憩時間に、自分の名前を漢字で書いてほしいと、同行のドイツ人達に所望された時、ガイドの2人にも漢字名を書いてあげた。エドワルドには（江戸悪奴）、ゴンザロには（権左郎）と命名した。

意味を知らない彼らは嬉しそうに、メモを内ポケットにしまったが、エドワルドの漢字には、若干私の感情が入っていたと思う。

原住民が暮らすクエンカ

1月7日（金）後ろ髪引かれる思いでキトを後にした。キト→クエンカは航空機使用49US\$（5,194円）40分の旅。上空から見るクエンカの街は、人口20万の小都市だが、エクアドルでは3番目に大きい都市と言う。

スペインの田舎風の感じがする。実際に街を歩いてみて日中の気温28℃、湿度40%は実に快適。しかし、車が多く空気の汚染が酷くすぐにノドがいがらっぽくなるのが難点。

この街全体が「世界遺産」に指定されているというのに車の規制は全くないようだ。文化遺産の保護を言うのは易いが、快適な庶民生活との兼ね合いは簡単ではないようだ。

小さな街に立派な「中央銀行博物館」もあった。アングルやラファエロの模写も多く、苦笑を禁

じ得ない面もあるが、概ね充実の内容であった。先住民インデオの昔の生活用品展示に混じって、目が釘付けになったのは、手の平に載るくらいに縮んだ「人間の乾し首」であった。頭蓋骨を抜いて創ったものであろうか？ 精巧にできたおもちゃの人形のように怖さは感じなかった。

物価は安く、ホテル代はツインルームで6US \$ (636円) シャワー、トイレ、AC、バルコニー付き。Yさんの部屋は家族用の3ベッドだから「少し高いよ！」とフロントの人に言われ、私達は固唾の呑んだ。しかし、7 \$ (742円)と言われ笑ってしまった。

市場へ出掛けて感じたことは、新鮮な品物が豊富で、東南アジアのどの国よりも、遥かに豊かな感じがする。

スペインの影響と言うよりも、US \$をそのまま使える現実を見れば、アメリカの経済支配を感じた。街でアメリカ製品も多く見た。

夕食に、魚貝類の沢山入った、日本人に馴染の旨い味のスープを食べた。4 \$ (424円)で、納得の味とボリュームだった。

ホテルに同宿のバハマから来た自称医師と言う、40歳前後の男性と朝食で一緒した。

Yさんは彼に大変興味を示したが、彼女は健康で相談事がないため、勝手に私の咽の相談を始めた。私は英語を話せないと断った。

人を舐め回すような野卑な目つきと、クシャクシャの長い髪は汚れ、胡散臭そうなこの男性に、自分の健康状態を話す気になれなかった。夕方「バハマに良い投資先がある…」とYさんに執拗につきまとったため、彼女も変だ！と気づき「かくまって欲しい」と私の部屋に夜の11時過ぎまで居候していた。

はて迷惑な！事故によく遭う人は、その行動に問題があり、事故を誘き寄せている…の感を更に深めた。バハマの医師だと？ 私は始めから疑わしく思っていた。

ここクエンカも、清潔で趣のあるしっとりとした街で、暫く住んでみたい気がする。

ただし、車が吐き出す真っ黒な煤煙の公害を除くことができれば…。

民族色豊かなロハの街

1月9日(日)次の訪問地と言うより、ペルーへの通過地点。交通機関は長距離バスのみ。バス代は、エクエンカ→ロハ間US \$ 7.5(795円)。所要5時間の旅。

どうも料金が安いと思ったら、普通の長距離路線バスであった。車内の様子は、赤ん坊にお乳を飲ませるため、惜しげもなく大きな乳房を見せる若い母親。白い袋の中身が時々動くので、ヘビでも持っているのかと思ったら、鶏の鳴き真似をして教えてくれた老女。

このニワトリを自分で絞めるのかと聞いたら「そうだ！」と事もなげに答えた。ホンに南米の女性は逞しいのう。

また、私の隣には強烈なニンニク臭のする鶏肉とポテトの炒め物をビニール袋から取り出して、手づかみで食べ、油でギトギトの手を、化粧品代わりに手や顔になすりつける小母さんもいた。合理的ではあるが、この人がバスを降りるまで「毒ガス」を嗅がされている思いであった。

因みにこのご婦人、日焼けはしているが、鼻筋美しく、目はクッキリと大きく唇は大きからず小さからず、若い頃は中々の美貌であったことが分かる。

ロハはLojaと地図に記載されているが、ガイドブックにも載っていない小さな街だ。日本語はもとより英語も全く通じない素朴な街。ホテルなどでは、専らボデイ・ランゲージと筆談で通じた。ここまで来ると、私達は言葉が通じないことを全く恐れなくなった。

街の様子と言え、カテドラル前の広場には民族衣装を着け、山高帽のご婦人達が大勢集まって物々交換(?)している。

ご婦人達の衣装を見せていただいたら、あられもない仕草でスカートをめくって見せてくれた。何と、スカートを何枚もはいていた。寒さ除けか、盗難防止かは分からなかった。

息つく暇もないほどの緊張感と楽しさに誘ってくれた国エクアドルに別れを告げ、次の訪問地ペルーへと向かった。

G C版 最近の感触

ゴールドコースト支部 No.586 磯崎 興志

<経済状況> 豪州ドル価格は昨年初め(1豪ドル60円)から反転し、80~85円で移行しています。労働者の最低時間給は18ドル、時間給で見ると日本より高い。1ドル80円を超えるとインフレに感じます。全く不況感がない。大型スーパーは駐車を探すほど混雑し、長期金利は上昇しています。預金金利(預金金利税金—住民以外10%)は6~7%代になっています。人口は2500万に増え(GCは45万→60万)40万ドル(AUドル)以下の住宅は政府の援助もあり順調に売れています。ミリオン(1億円)以上は低迷しています。観光客の顔ぶれは、モスレム関係国、ソ連、中国人が目立ち、韓国のゴルフバックは激減しています。自家用車は2~4000cc以上の高級車が多く、トヨタレクサス、BM、ベンツ、ホンダが多く、コンパクトカーは少数です。

人口増加運動が奨励され4~5人の子供ずれ若夫婦が目立ち、子供用品売り場が多い。3人乗り乳母車を初めて見ました。

<天候、環境> 水道水が飲める、町の角々に広い整備された公園がある。歩道の天然芝や、町全体を美しく見せ、その価値をブロックで維持しているのには驚かされる。四季は日本とは逆でジャガランダ(桜に相当—紫の花)が終わり夏になりました。毎日サザエさんの歌のように、天気続きで(9月下旬から3日のみ雨—2~3月は雨が比較的多い)ゴルフ日よりです。温度は朝夕17~23度は、昼間は27~30度ですが乾燥激しい為、実感は快適でそれほど暑くはありません。日陰は涼しい。強烈な日光のため、長袖は離せません。

<ゴルフ> キャディーはいない。8分間隔のスタート。予約は満員でもプレイ始めれば25~3時間半程度、18ホールスループレイ 10~60分以内に10コースあり。レイクランド(ディボットがほとんどない)というコースでプレイ中ですが、

ジャガランダの花



片道15分18ホール2.5~3.5時間で回っています。大たたきした後ゴルフボール洗い機でボールを洗うと、ドンマイ、ドンマイと言います。

小型カラス(マグパイ)が14番ホールに、必ず挨拶(何かくれ—味が気に入らないと食べません。やはり、パン系が好き)に来ます。昨年(200日ステイ中)の実績夫婦2名年間6000ドルの年会費 150回プレイ、1回20ドル位(1800円)の



負担した計算になります（会員権代別）。

以下に JCB の観光客相手の価格表を上げます（20～40分以内）。カート 練習場費、諸雑費代など含む。

パークウッド：40 AUドル
（18ホール カート代含）
エメラルドレイクス：60
コロニアル：85
パームメドウ：95
ロビーナ ウッズ：95
レイクランド：98
ロイヤルパインズ：105
グレイズ：110
ゲインズボロー：69
サンクチュアリー：95
ホープアイランド：142

午後2時過ぎから 割引料金あり（会員500～1万ドルなれば1回～2～30ドル程度の負担）実際は割引券多数あり。レイクランドは会員向け同伴者に60ドル券、また短期会員（1カ月間などの割引ある）1時間以上、運転すれば、30～40ドル程度のコースは多数あり。昼食付きもある。

<ロングステイの条件> 安全（治安）、価格、言葉、食事、趣味、などの要件を考慮に入れれば、ゴルフ好き会員には、日本食材料店も増え、住、移動（車）など安くゲットできれば、ハワイ、アジア、マレーシアKL地区より、快適と言えるでしょう。また目の前が海、多数の公園あり。テニス、水泳、サイクリング、ウォーク、ランニング、釣り、船遊び、などは、経済的にプレイできる。

車は中古車が多数あり 1000ドル（8～8.5万円）からあり。

日本で自転車購入する時のように簡単にゲットできます。

車レンタルは 27ドル/1日あります。

国際免許証。日本は1年切り替えで煩雑、高価格ですが、免許証英訳 電気代支払書など揃えれば、15分で5年間有効、73ドルで発行されました。また証明書（パスポート）代わりにもなります。経済的ロングステイ条件としては、郊外に住みパブリックゴルフ場プレイ、1台の車維持で1カ月25万円～30万でステイできると考えます（例：10万ドル預金で実質年間5000ドル収入あります）。

<住居> アパート（コンドー）

最低3か月契約（1週間単位、駐車場、1台。GC中心部、プール、テニスコート、サウナ、ジムなどの付属設備完備）。

1ベッド350～450ドル（数が少ない）、2ベッド450～700ドル位。3～40坪程度の空間が広い（低層、郊外は安くなります、短期3か月以内は高価格）。アパート紹介日本語サイトは更に高価格（例 アコモネットなど）。若いワーホリ（working - holiday）の広告は週90～120ドル（1部屋シェア2名で）見かけます。

<GCの欠点> 日本から遠い 偽のすし屋が多い（酢をつけたオニギリ：まずい）。外食が高い。おいしい魚が少ない。サバ、エビ、サケは良いものがあるが、野菜が育ちすぎで堅い。手に入れにくい食品、良い大根、ゴボウ、太いネギ、ホーレンソウなど。罰金制度が厳しい。

2～3キロオーバーでも写真機で、100ドルの違反金。検疫がうるさい（特に食料品、タバコ250本以内）。食品申告違反はすぐ500ドル程度。乾燥が激しく、日光が強いため、肌の手入れが必要。

<GCの良い点> 浅い海水上を真っ白な砂浜の散歩ができるのが最高です（ワイキキ、シンガポール、セブと比較）。

ゴルフ練習場がコースと同じ条件で練習できる。時差が少ない1時間。水道水が飲める。肉、砂糖、小麦粉などは安い。特に鳥は安く日本よりおいしい。果物豊富、観光地のため、外来者は基本的にウェルカムで、街角にぶらぶらするような者がいない。運転が紳士的。割り込みや、無謀なドライバーはまずいない（KLとの比較）。

ゴルフプレイ中、スローであれば必ずパスさせる。質問には必ず答えてくれる。チップがないので楽（ハワイとの比較）。この6年間で人種差別的対応は経験していない（米国との比較）。

自然、天候、動物との距離が身近であること（欠点でもある）カラスにオニギリを何回も奪われた）。

支 部 便 り

2010 年度チェンマイ支部情報

チェンマイ支部長 No.54 山口 洋二

2010 年度チェンマイ支部情報

1 連絡先

チェンマイに来られました際の連絡・相談先
支部長

携帯電話 083-8604418

メールアドレス nanngokuchiangmai@yahoo.co.jp

2 2010 年度サロン会実施予定

月	備 考
4 月	休 会
5 月	1. 時期 毎月第 2 土曜日
6 月	2. 時間 午後 6 時 30 分から 概ね 2 時間
7 月	3. 場所 ドウワンタウンホテル 2 階 (ナイトバザール近く)
8 月	4. 会費 280 バーツ (お釣りのない様に)
9 月	5. その他
10 月	(1) ビールは、飲んだ人で割勘 (概ね 100 バーツ)
11 月	(2) チェンマイに関する質問事項は、 事前準備し積極的に、チェンマイ 12 月 長期生活の方々から、情報を得て 1 月 下さい
2 月	(3) サロン会への参加連絡 総務 加藤 (082-1875461)
3 月	(4) クリスマスイブ会食を予定

3 支部として実施しないこと

(個人的な関係で行うのは、この限りではあり
りません)

- (1) 視察者及び短期滞在者等に対する空港への
出迎えから始まって、チェンマイ市内等現
地案内を含むあらゆるガイド的事項及びそ
の手配
- (2) ホテル・コンド等宿泊場所の手配
- (3) チェンマイ在住の方のお宅見学及びその手
配
- (4) サロン会以外での、短期来訪者等の歓迎会・

送別会など臨時の会食

4 支部として会員に行うこと

チェンマイに来られた方で、お困りの際の
相談・アドバイスの実施

5 支部からのお願い

チェンマイに到着後は、必ず支部長に連絡
を入れてください。

連絡内容 1 滞在期間 2 滞在场所
3 携帯番号 (連絡先)

平成 21 年度 関東甲信越支部活動報告

関東甲信越支部長 No.732 馬場 章介

21 年度は支部会員の皆様のご協力と支部役
員の方々のお世話で毎月 1 回 (6 月は 5 月に総
会が開催されるので日程の都合で開催しており
ません) のサロン会の開催を行いスローガンど
おり「楽しく・仲良く・情報交換」を行うこと
ができました。特にサロン会では新しく会員に
なられた方の参加が多く見られました。外部講
師の方や毎月会員の方々にはスピーカーをお願い
して LS に役に立つ、そして海外の楽しいお
話をしていただきました。サロン会の終了後には
毎回レストランや居酒屋で懇親会も開催し会
員同士の親睦を図りました。

その他、ボランティア活動、パソコン教室の
開催、クルーズ同好会、テニス同好会が定期的
に積極的に活動を実施しております。一年間の
主な出来事を下記します。

- 1、サロン会の開催回数 11 回、と年間参加者
合計 673 名。
- 2、プロジェクターを導入したお陰で、お話だ
けでなく大きなスクリーンに映し出した画
面を見ながら話を聞くことにより臨場感が
ありました。
- 3、10 月に南国暮らしの会 NPO 法人認証の
「10 周年記念サロン会」を開催。タイ国政

府観光庁マーケティングマネージャー藤村善章様を外部講師として向かえタイのLSについてのお話を講演していただいた。

4、*クルーズ同好会

平成21年7月6日(月)～17日(金)

12日間「エーゲ海・トルコクルーズ」参加者：19名(北海道支部2名 関西支部4名 関東甲信越支部13名)

*中国・桂林ロングステイ下見ツアー

平成22年3月29日(月)～4月3日(土)
5泊6日間

参加者：14名(関東甲信越支部会員11名 他3名)

5、*パソコン教室の開催

年間17回開催、参加者延べ数(講師含)123名

6、毎月支部役員会の開催を開催。午後からのサロン会の午前中に集まり、当日のサロン会の運営、プログラムの最終確認と次月以後のサロン会の内容について打ち合わせを行っております。

7、支部のボランティア活動として齋木支部長のパンガシナン、バギオ支部エリアの被害の義援金活動とチェンマイ支部エリアからの要望で使い古しのパンティーストッキングの収集をしチェンマイに提供しました。

関西支部便り

関西支部長 No.754 松本 都志重

11月例会の開催

11月4日(水)午後1時から大阪市立生涯学習センターで30名が参加して例会を開催しました。例会のテーマは、①坂本茂樹ご夫妻の「チェンマイ初ステイ」の体験報告、②松本支部長夫妻の「ニュージーランドよもやま話」でした。その後参加者の自己紹介、タイ、マレーシア、その他の国に分かれてグループ別の情報交換会を実施しました。午後5時30分から居酒屋「呑」に席を移して懇親会を実施しさらに親睦を深めました。



坂本清子さん



松本支部長夫妻

1月例会の開催

1月16日(土)午前11時30分から「新春祝賀サロン会」と称して食事会を実施しました。場所は大阪駅近くのヒルトンプラザB2F創作スチーム料理「蒸樹庵」です。参加者25名。

スチーム料理は初めての人が多かったようですが、ヘルシーで女性には人気がありました。この後、徳永卓雄夫妻の「北京格安旅行体験談」の発表と「格安航空券入手のノウハウ」として3名の人から発表がありました。



食事会の様子

3月例会の開催

3月26日（金）午後1時から大阪市立生涯学習センターで3月例会を開催しました。

参加者は30名でした。テーマは①「台湾ロングステイのお勧め」～神原克収夫妻 ②「ホリデーハウスと国内ロングステイのはじまり」～川島千明さん ③「格安航空券入手のノウハウPART II」でした。午後5時30分からいつもの居酒屋「呑」で懇親会を実施しました。



神原克収さん



川島千明さん

九州支部便り

九州支部長 No.851 稲田 聡

1月10日（日）定例の情報交換会及び新年会を開催しました。

今回は別府在住、739若原里美さんのご紹介で立命館アジア太平洋大学のLBS研究会が推進しているホリデーハウスというヨーロッパ生まれのコンセプトを聞いてみようということ、また昨夏、秋と北海道ステイを経験してきた会員が2人いるということで「国内ステイ特集」と目先を変えた情報交換会としました。

1. LSB (Long Stay Beppu)

1軒の古民家を大改造して住みやすくした家具付き住宅でここにステイするというスタイルです。

滞在期間は自由に設定できますが、月5万弱で大変リーズナブルです。場所は街まで車で20分の別府郊外の棚田の中にあります。

住み心地も良さそうで、近所の住民との交流ができるなど魅力がありますが、実験棟みたいなもので1軒だけというのが難点ですね。

HPがありますので興味のある方はご覧になってください。なお、関係は全くありませんが鳥取のハワイ温泉にも似たものがあります。国内でもだんだん増えていくことが期待できそうです。



2. 北海道ショートステイ

当会会員のアパートを借り上げて、1ヶ月のステイをしてきた体験談でした。

車の走行距離は、3,000kmとか。北海道の広大な大地をあちこちと駆け回るのもいいようです。

宿泊場所は他にもあるようで、リピートしたいとの感想でした。



部 会 伝 言 板

総 務 部 会

担当理事 No.462 小林 孝

A) 理事会議事録(抜粋)

*平成21年度第4回理事会

平成21年12月23日開催

出席：理事12名、委任状4名、監事2名

審議・報告事項

- 1) セブ在住の入会について、基本的に入会をも認めるも支部の推薦状を提出の事。
- 2) 10周年記念事業の報告。
- 3) 会報新年号編集進行状況。
- 4) 予算進捗状況報告。
- 5) 来期予算提出依頼・・3月上旬締切
収入が20万円減少、経費削減が必要。
- 6) KL支部長交代
棚村支部長→野村晃正氏の推薦があり、承認された。
- 7) HPの件：担当の高橋理事が病氣療養の為、九州支部朝永会員にピンチヒッターをお願いした。

*平成21年度第5回理事会

平成22年3月13日開催

出席：理事11名、委任状5名、監事2名

審議・報告事項

- 1) 高橋理事急逝を悼み黙祷
- 2) 新理事選任13名、重任理事4名の審議。
満場一致で選任、総会の信任を諮ることとなった。
- 3) 監事1名任期満了。新監事に高田理事長を満場一致で推薦することになった。
- 4) 顧問の推薦。理事長より2名の推薦があり満場一致で推薦することになった。
- 5) 支部長交代
関西支部：松本氏→徳永卓雄氏
関東支部：馬場支部長→佐々木一信氏
ペナン支部：川崎支部長→松下茂氏
- 6) 来期予算案の審議

収入減が予想される。再度見直しをし、次回理事会で審議決定する。

- 7) 会報春季号進行状況、総会資料、フィリップ特集
- 8) 21年度事業報告案の説明が理事長よりあった。
- 9) 22年度体制案
馬場理事を新理事長に推薦、満場一致で承認。業務分担は後日決定する。

*平成21年度第6回理事会

平成22年4月11日開催

出席：理事11名、委任状5名、監事3名

審議・報告事項

- 1) 次期理事業務分担及び引継ぎの件
- 2) 平成21年度事業報告書審議、満場一致で承認。
- 3) 平成21年度収支計算書・貸借対照表審議、満場一致で承認。
- 4) 平成22年度予算案審議、満場一致で承認。
- 5) 平成22年度事業計画案審議、満場一致で承認。
- 6) 平成22年度総会議案審議、承認
第1号議案：平成21年度事業報告書
第2号議案：監事任期満了に伴う選任
第3号議案：理事任期満了に伴う信任
第4号議案：平成22年度事業計画案及び
予算案

支 部 推 進 部 会

担当理事 No.670 今野 力男

支部長交代(敬称略)のお知らせ

(平成22年4月1日)

- ① 関東甲信越支部長：
No.732 馬場章介→No.1125 佐々木 一信
- ② 関西支部長：
No.754 松本都志重→No.891 徳永 卓雄

③ ペナン支部長：

No.524 川崎勇→No.1020 松下 茂

ペナン松下 茂支部長への連絡先

住所：109-09-09 Gold Coast Resort

Persiaran Bayan Indah 11900 Bayan

PENANG MALAYSIA

電話：04-656-3601 * FAX：なし

携帯：016-405-3567 010-386-3502

Email：yoko-papa@hotmail.co.jp

副支部長： 佐々木 正美

広 報 部 会

担当理事 No.732 馬場 章介

- 1、平成20年度に引き続き外部からの取材及び一般の方々への魅力あるホームページ作りへ注力しました。
- 2、定期的に各支部のHPの内容を最新情報に更新を行う。
- 3、10周年記念行事の際に主なロングステイ先の国の大使館、観光局に訪問し挨拶と会の紹介と記念特集号への投稿を依頼した。

特記事項・期の途中で、長い期間HPの構築とメンテナンスにご尽力いただいたNo.735高橋実さんが病気のために亡くなられたことに心よりお悔やみ申し上げます。そのため急遽、後任をNo.581朝永さんをお願いしNo.996の歌田さんとともにHPのメンテナンス作業を担当していただきました。以上

会 報 部 会

担当理事 No.1125 佐々木 一信

この伝言板で何回か来季の会報から年3回の発行とし誌面のカラー化などを提案してまいりましたが、来季の予算及び今後の会員数の伸び等を鑑み、予算の半分近くを使う会報経費を圧縮すべきとの理事会決議に基づき、カラー化を断念いたしました。発行は新年号、春季号、夏季号の年3回とし、切り口を変えた新しい企画、誌面創りに、無い知恵を委員会で絞り、つくっ

ていきます。会員の皆様の提案をお願いいたします。

☆ 会員部会では編集、発送作業をお手伝い頂ける方を常時受け付けております。

興味のある方、お手伝い頂ける方はお近くの理事、またはメールでご連絡ください。

友好団体紹介コーナー

★財団法人ロングステイ財団

<http://www.longstay.or.jp>

★チェンマイロングステイライフの会

(CLLクラブ)

<http://cll.thaijp.net/>

★ワールドステイクラブ (WSC)

<http://homepage3.nifty.com/worldstayclub/>

★THE JAPAN CLUB OF KUALA LUMPUR KL

(クアラルンプール) 日本人会

<http://www.jckl.org.my/>

★北ルソン日本人会 (LANL)

<http://janl.exblog.jp/>

★バンコク日本人会

★西豪州日本クラブ

編 集 後 記

多くの会員が南の国から戻られたようです。日本が最もいい季節になりました。毎回ご協力頂いた、各支部長、投稿頂いた会員の皆様にお礼申し上げます。また今回はお忙しい中、特別寄稿を頂いた各団体の方に厚く御礼を申し上げます。今号は総会に向けて、一年間事業報告、決算、次年度の予算案など見て楽しくは有りませんが、大切な内容です。ご存知のようにこの会は会員の皆様からの会費（浄財）と新規入会者の入会金で運営されています。楽しく、有効に使われるように、是非一読してください。

(513青木方子、1125佐々木一信)

☆タイの政情不安

☆フィリピンの大統領選挙

訪問前に外務省のホームページ(海外安全情報)など事前に調査の上、判断してください。

南国暮らしの会 支部一覧

2010年4月現在

支 部 名	会員番号	支部長名	e-mail アドレス
北海道支部	625	工藤 俊一	syun@edu-japan.net
東北支部	498	氏家 孝	takashujiie3322@yahoo.co.jp
関東甲信越支部	1125	佐々木 一信	gogo.k.sasaki@kvf.biglobe.ne.jp
東海支部	543	清水 重一	shimizu434@mwd.biglobe.ne.jp
関西支部	891	徳永 卓雄	michitac@ares.eonet.ne.jp
九州支部	851	稲田 聰	akiaki0072002@yahoo.co.jp
マニラ支部	※ 1269	岩崎 宏	iwasaki@friendshipmanila.com
セブ支部	※ 636	鶴岡 照郎	telu@wave.plala.or.jp
バギオ・パンガシナン支部	227	齋木 一	saikihajime@hotmail.com
ダバオ支部	—		
バンコク支部	—		
チェンマイ支部	54	山口 洋二	obito2006kyotai@yahoo.co.jp
クアラルンプール支部	1050	野村 晃正	sun1403jp @ yahoo.co.jp
ペナン支部	1020	松下 茂	yoko-papa@hotmail.co.jp
ハワイ支部	699	大黒 均	hitdikok@hotmail.com
ゴールドコースト支部	※ 586	磯崎 興志	isozakiks586@w4.dion.ne.jp
パース支部	—		

※ は支部長代行

写真ご提供有難う御座います。

表 紙

関東甲信越支部 No.1203 西山 武夫さん

裏表紙 (ダピタン会)

関東甲信越支部 No.342 佐藤 勝さん

他は会報編集委員会

訃 報

理事 735 高橋 実氏は病氣療養中のところ、1月18日に逝去いたしました(享年60歳)。HP 委員会委員長として、会の運営にご尽力いただきました。慎んでご冥福をお祈り申し上げます。

合掌

「南国暮らしの会」からのお勧め

*** 自己責任 * 納得の上 * 自己決定**

南国で不動産等の買い物をするときは、すぐ買わず、情報を幅広く集めて、自分の目で確かめて、しばらく試してみて納得してから、自分の責任において自己決定する。

【連絡先一覧】

- (1) MLメールアドレスの変更 mail.iinkai@gmail.com
- (2) 会員関係（住所変更など） kaiin.bukai@gmail.com
- (3) 経理関係（会費、名刺ロゴマークなど） keiri.iinkai@gmail.com
- (4) その他一般 home@minaminokai.com

(メールには用件の他に会員番号、氏名、ご自分のメールアドレスを明記して下さい。またMLメールアドレス変更の場合は、ウイルス防止のためご利用のウイルス防止ソフト名あるいはプロバイダのウイルスチェック契約の有無を追加してください)

【編集委員】

No.1125	佐々木 一信	No. 281	村松 幸子
No. 465	橋本 慧	No. 470	細田 良子
No. 513	青木 方子	No. 732	馬場 章介
No. 900	島林 健二	No. 923	永田 隼人
No.1256	大塚 眞一	No.1309	青木 一義

記事の無断転載・複製を禁じます。

発行者 特定非営利活動法人（NPO法人）

「南国暮らしの会」

©minaminokai

理事長 高田 勝弘

〒140-0002 東京都品川区東品川3-22-20-1208

<http://www.minaminokai.com/>

E-mail: info@minaminokai.com



投稿写真コーナー



卒業写真 (ダビタン会)



熱海桜 (静岡)



目黒川桜 (東京)



ダバオ